OLYMPUS

デジタルカメラ

取扱説明書

- 製品をご使用になる前に、本書の「安全にお使いいただくために」を良くお読みください。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- この取扱説明書は、カメラのファームウェアVer1.0にもとづいて記載されています。カメラのファームアップにより機能の追加・変更があった場合、記載内容が異なります。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

カメラ

ホットシュー ☞P.83、85
内蔵フラッシュ ☞P.80
LIGHT（ライト）ボタン ☞P.14
コントロールパネル ☞P.6、28
WB（ホワイトバランス）ボタン ☞P.70
（露出補正）ボタン ☞P.50
ISOボタン ☞P.53
シャッターボタン ☞P.16、36
サブダイヤル（ ） ☞P.28–31
光源センサー ☞P.70、111
プレビューボタン ☞P.48
レンズ合わせマーク ☞P.12
マウント
（ボディキャップを外してからレンズを取り付けます。）
ミラー
UP（フラッシュポップアップ）ボタン ☞P.80
外部フラッシュ端子 ☞P.85
（フラッシュ）ボタン ☞P.79
（フラッシュ補正）ボタン ☞P.81
MODEボタン ☞P.43-48
（リモコン／セルフタイマー／連写）ボタン ☞P.62-64
AFボタン ☞P.55
（測光）ボタン ☞P.49
COPY/（コピー／プリント）ボタン ☞P.94、116
ストラップ取り付け部 ☞P.10
ビデオ出力端子（VIDEO OUT） ☞P.92
USB端子 ☞P.117、122
DC入力端子 ☞P.143
コネクタカバー
リモートケーブル端子 ☞P.140
セルフタイマー／リモコンランプ／リモコン受信センサー ☞P.63、64
レンズ取り外しボタン ☞P.12
レンズロックピン
OLYMPUS

アイカップ☞P.141
ファインダ☞P.5
液晶モニタ☞P.8、9、32
アイピースシャッターレバー
☞P.63
視度調整ダイヤル☞P.14
照度センサー
☞P.111
（消去）ボタン
☞P.18、96
INFO（情報表示）
ボタン☞P.33、90
MENUボタン
☞P.30
三脚穴
（ライブビュー）
ボタン☞P.32
SSWFランプ
☞P.14、138
パワースイッチ
☞P.14
IS（手ぶれ補正）ボタン
☞P.66
電池カバーロック
☞P.11
（再生）ボタン
☞P.18、87
AEL/AFLボタン☞P.51、
101
（プロテクト）ボタン
☞P.95
メインダイヤル（）
☞P.28–31
十字ボタン（）
☞P.30
ボタン☞P.30
Fnボタン☞P.102
（AFターゲット）
ボタン☞P.58
カードカバー
☞P.13
OLYMPUS
xD-ピクチャー
カードスロット
☞P.13
イジェクトボタン
☞P.13
CFカードスロット
☞P.13
カードアクセスランプ
☞P.13、16、124
電池カバー ☞P.11
カードカバーロック
☞P.13

ダイレクトボタン

以下の機能が設定できます。各ダイレクトボタンを押しながらダイヤルを回して設定します。☞「ダイレクトボタンの操作」（P.28）

ファインダ

絞り値 ☞P.43-46

シャッター速度
☞P.43-46

スーパー FP発光
☞P.83

測光方式
☞P.49

撮影モード ☞P.43-48

連続撮影可能枚数
☞P.62

手ぶれ補正 ☞P.66

ISO感度 ☞P.53

ホワイトバランス
（オートホワイトバランス以外に設定しているときに表示されます。）
☞P.69

AEロック ☞P.51

フラッシュ補正
☞P.81

合焦マーク
☞P.16、61

フラッシュ ☞P.80
（点滅：充電中、点灯：充電完了）

オートブラケット
☞P.51、54、73、82

ISO感度数値
☞P.53

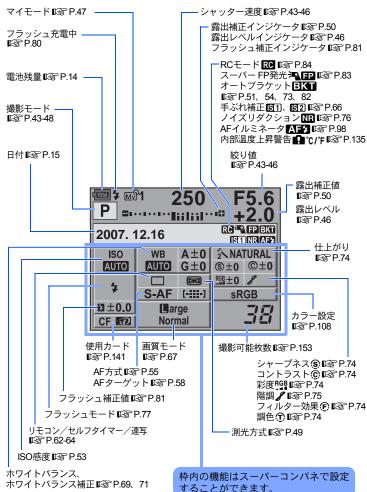
電池残量
☞P.14

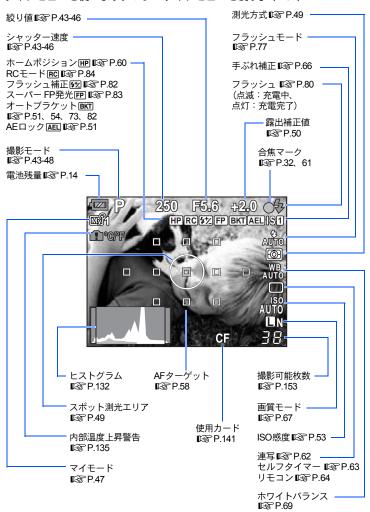
露出レベルインジケータ ☞P.46
露出補正インジケータ ☞P.50

コントロールパネル

AF方式
☞P.55
オートブラケット
☞P.51、54、73、82
ISO感度
☞P.53
撮影モード
☞P.43-48
露出レベルインジケータ ☞P.46
露出補正インジケータ ☞P.50
測光方式
☞P.49
画質モード
☞P.67
ホワイトバランス
☞P.69、71
仕上がり（モノトーン）
☞P.74
AWB
WB±
L M S RAW
B/W
K
SFNB
PsASM
-0+
ISO BKT
MFAFC
F
IS
SLOW
A 2nd-CURTAIN
H
L
フラッシュモード
☞P.77
シャッター速度
☞P.43-46
連写 ☞P.62
ノイズリダクション ☞P.76
セルフタイマー ☞P.63
絞り値
☞P.43-46
リモコン
☞P.64
電池残量
☞P.14
手ぶれ補正
☞P.66
AFターゲット
☞P.58
撮影可能枚数
☞P.153

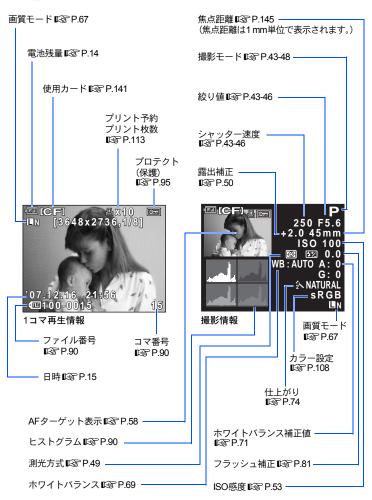
スーパーコンパネ

撮影の設定状態の表示と設定が、同時にできる下の画面をスーパーコンパネと呼びます。**INFO**ボタンを押して液晶モニタに表示して使用します。
☞「スーパーコンパネの操作」(P.29)

液晶モニタ（ライブビュー）

液晶モニタで被写体を表示して確認しながら撮影します。[◻]ボタンを押してライブビューを使います。☞「ライブビューを使う」（P.32）

液晶モニタ（再生）

INFOボタンを使って表示を切り換えることができます。
☞「情報表示」（P.90）

1コマ再生情報

撮影情報

同梱品を確認する

お買い上げの商品には次の付属品が入っています。
万一、不足していたり、破損していた場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。

カメラ

ボディキャップ

ストラップ

リチウムイオン電池BLM-1

リチウムイオン充電器BCM-2

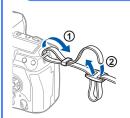
USBケーブル

ビデオケーブル

OLYMPUS Master 2 CD-ROM

取扱説明書

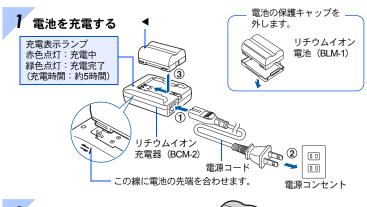
保証書

ストラップを取り付ける

矢印にしたがってストラップを通します（①、②）。

最後に強く引っ張り、抜けないことを確認してください（③）。

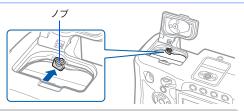
もう一方のストラップ取り付け部にも、同様にストラップを取り付けます。

電池を準備する

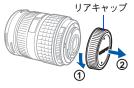
1 電池を充電する

2 電池を入れる

3 電池カバーを閉め、電池カバーロックを⊖の方に回す。

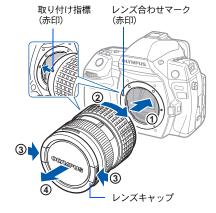
電池を取り出す

電池ロックノブを押すと電池が取り出せるようになります。カメラを逆さにして、取り出してください。

長時間の撮影には、電池の消耗に備えて予備の電池を用意されることをおすすめします。

レンズを取り付ける

1 カメラのボディキャップとレンズのリアキャップを外す

2 レンズを取り付ける

- カメラのレンズ合わせマーク（赤印）にレンズの取り付け指標（赤印）を合わせ、レンズをボディに差し込みます（①）。
- レンズをカチッと音がするまで矢印の方向に回します（②）。

レンズ取り外しボタンは押さないでください。

3 レンズキャップを外す（③、④）

レンズを取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら（①）、矢印の方向に回します（②）。

カードを入れる

コンパクトフラッシュ／マイクロドライブの場合

カードカバーロックを回して（①）カードカバーを開けます。
端子側を奥にして差し込みます（②）。

xD-ピクチャーカードの場合

カードカバーロックを回して（①）カードカバーを開けます。
カードがロックされるまで差し込みます（②）。

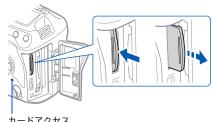
カードを取り出す

カードアクセスランプが点滅しているときは、絶対にカードカバーを開けないでください。

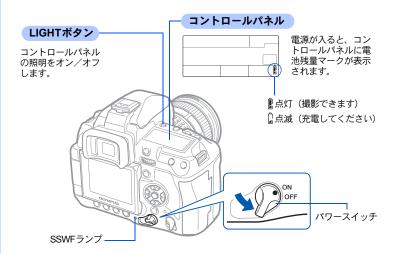
コンパクトフラッシュ／マイクロドライブの場合

• イジェクトボタンを奥まで押し込むと、カードが出てきます。
• カードをつまんで取り出します。

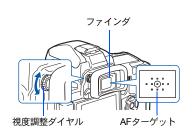
xD-ピクチャーカードの場合

• 差し込まれているカードを軽く押すと、カードが出てきます。
• カードをつまんで取り出します。

電源を入れる

1 パワースイッチをONの位置にします。

・電源を切るには、パワースイッチを**OFF**の位置にします。

ダストリダクション機能の作動
電源を入れたとき、撮像素子のフィルター前面についたゴミをスーパーソニックウェーブフィルター（SSWF）により払い落とすダストリダクション機能が自動的に働きます。ダストリダクション機能が作動中はSSWFランプが点滅します。

ファインダを見やすくする

視力に合わせてファインダの視度調整をします。
ファインダをのぞきながら、視度調整ダイヤルを少しずつ回します。
AFターゲットがはっきり見えたら調整完了です。

日時を設定する

日時の情報は画像とともにカードに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。

1 MENUボタンを押す

- 液晶モニタにメニュー画面が表示されます。

2 △▽で[ʏ2]を選択し、▷を押す

3 △▽で[日時設定]を選択し、▷を押す

4 △▽で[年]を選択し、▷を押す

5 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力する

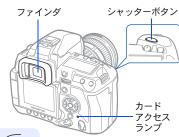
- 時刻は24時間表示です。

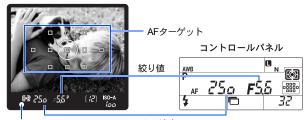
6 △▽で日付の順序を選択する

7 OKボタンを押す

8 MENU ボタンを押して終了する

撮影する

1 ファインダをのぞきながらAFターゲットに被写体を合わせ、構図を決める

2 ピントを合わせる

シャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯し、ピントの合ったAFターゲットが点灯します。
- カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。
- シャッターボタンが押されている間は、スーパーコンパネは消灯します。

3 撮影する

半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。

- シャッター音がして、撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

カードアクセスランプの点滅中は、絶対に電池やカードを抜かないでください。撮影した画像が保存されないだけではなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。

カメラの構え方

レンズ、フラッシュ、光源センサーに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

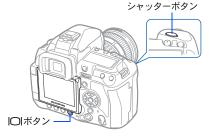
横位置

縦位置

液晶モニタを見ながら撮影する

撮影する被写体を液晶モニタに表示して構図を確認したり、拡大表示して液晶モニタを見ながら撮影することができます。
☞「ライブビューを使う」(P.32)

1 (ライブビュー)ボタンを押す

- 液晶モニタに被写体が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しする

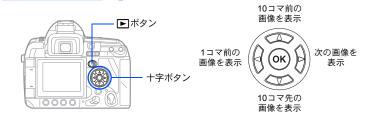
- ピント合わせをして撮影されます。

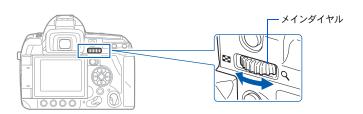
カメラが動作を停止したときは

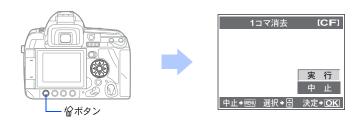
電源を入れたまま約8秒間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐために液晶モニタのバックライトが消灯します(スーパーコンパネ点灯時)。さらに約1分間何も操作しないと、スリープモード(待機状態)になり、カメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどを操作するとカメラは動作を再開します。☞「バックライト時間」(P.105)、「スリープ時間」(P.104)

再生する／削除する

画像を再生する

▶ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

クローズアップ再生する

メインダイヤルを🔍側に回すたびに2～14倍と拡大倍率が変化します。

画像を削除する

消去したい画像を再生し、🗑ボタンを押します。
△▽を押して**[実行]**を選択しⓄボタンを押すと、削除されます。

本書の表記について

- 本文中の 〔メインダイヤル記号〕 は、液晶モニタ側のメインダイヤルを表しています。
- 本文中の 〔サブダイヤル記号〕 は、レンズ側のサブダイヤルを表しています。
- 本文中の操作ボタンの表記は、カメラ本体上のマークを使用しています。
「各部の名称と機能」（☞P.2）をご覧ください。
- 本文中、以下の表記を使用しています。

❗ 注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
こんなときは	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

本書を活用していただくために

「もくじ」（P.20）や「索引」（P.174）で探す他、カメラの機能や操作方法を以下の項目からも探せるようになっています。
知りたいことや撮影状況に合わせて、本書をご活用ください。

このカメラでどんな撮影ができるか知りたい
☞「撮影ガイド」（P.36）

操作方法が知りたい
☞「ダイレクトボタンの操作」（P.28）
「スーパーコンパネの操作」（P.29）
「メニューの操作」（P.30）

一覧から機能を探したい
☞「メニュー一覧」（P.155）
「索引」（P.174）

もくじ

かんたんガイド 2

各部の名称と、撮影・再生の基本を確認しましょう。

1 設定方法と操作の基本 27

カメラの基本的な操作方法について説明します。

2 撮影ガイド—上手に撮るために 36

場面に合った撮影方法について説明します。

3 露出 43

撮影で重要な露出に関する機能の説明です。明るさを測って絞り値やシャッター速度などをどのように決めるかを選びます。

4 ピント合わせ／撮影機能 55

撮影する状況や被写体に適切なピント合わせの方法を選びます。

5 画質／色合い／仕上がり 67

画像の出来上がりを調整する機能について説明します。デジタルカメラに特有の機能です。

6 フラッシュ撮影 77

内蔵フラッシュ撮影や専用フラッシュ撮影について説明します。

7 再生 87

撮影した画像を再生する際に使う機能について説明します。

8 カスタム機能の設定 98

カメラをお好みの状態にカスタマイズします。

9 プリントする 113

撮影した画像をプリントする方法について説明します。

10 OLYMPUS Masterを使う 121

カメラの画像をパソコンに取り込んで保存する方法について説明します。

11 こんなときは?／カメラのお手入れ 126

困ったときやカメラのことがもっと知りたいときにご覧ください。

12 資料 140

別売アクセサリーの紹介、カメラの仕様情報を記載しています。撮影の参考にしてください。

1 設定方法と操作の基本

機能の設定には以下の3通りの方法があります。

ダイレクトボタンを使って操作する P.28
機能が割り当てられたダイレクトボタンを押しながら、メインダイヤルまたはサブダイヤルを回して設定します。ファインダで被写体をとらえながら操作したいときや、コントロールパネルで確認してすばやく操作したいときなどに適しています。

スーパーコンパネ表示を見ながら設定する P.29
液晶モニタにスーパーコンパネを表示して、機能を設定します。スーパーコンパネでは、現在の設定状態の確認だけでなく、画面上で機能を選択して直接設定を変えることができます。

メニューを表示して操作する P.30
メニューでは撮影に関する設定だけでなく、再生に関する設定、撮影機能やカメラの機能をカスタマイズする設定を行います。

本書の記載方法

本書では、ダイレクトボタン、スーパーコンパネ、メニューでの操作方法を以下のように表記しています。
- 「**+**」は同時に操作をすることを示しています。
- 「▶」は次の操作に進むことを示しています。

例：測光方式を設定する場合

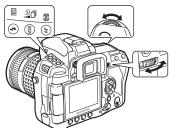
ダイレクトボタン	[測光ボタン] + [ダイヤル]
スーパーコンパネ	[OK] ▶ [十字ボタン]：**[測光]**
メニュー	**MENU** ▶ **[撮影メニュー2]** ▶ **[測光]**

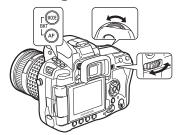
ダイレクトボタンの操作

基本操作には以下の2通りがあります。

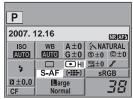
ボタンを押しながらメインダイヤルまたはサブダイヤルを回します。

- ボタンから指を離すと設定が確定します。
- 機能によっては、メインダイヤルのみ（またはサブダイヤルのみ）で設定します。

- フラッシュ横の3つのボタンは、ボタン上の機能はメインダイヤルで、ボタン側面の機能はサブダイヤルで操作して設定します。

2つのボタンを同時に押した後、メインダイヤルまたはサブダイヤルを回します。

- ボタンを押すとその機能が選択状態になります。約8秒その状態が保持されるので、その間にダイヤルを回して設定します。何も操作しないで約8秒経過すると設定が確定します。

設定中はファインダ、コントロールパネル、スーパーコンパネに情報が表示されます（例：[測光]/AFボタンを使って設定する場合）。

ファインダ

コントロールパネル

スーパーコンパネ

こんなときは

ボタンを押しながら同時にダイヤルを操作するのが難しい：

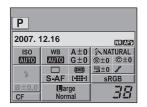
→ボタンから指を離しても、押した状態を保持することができます。☞「ボタンON保持時間」（P.103）

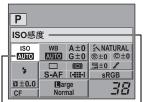
ダイレクトボタンで設定できる機能については、「ダイレクトボタン」（☞P.4）をご覧ください。

スーパーコンパネの操作

スーパーコンパネに表示されている項目を選んで、設定を変更します。

1 INFOボタンを押して液晶モニタにスーパーコンパネを表示します。

- 再度**INFO**ボタンを押すとスーパーコンパネが消灯します。
- ライブビュー中は、㊉ボタンを押してスーパーコンパネを表示します。

2 ㊉ボタンを押します。

- スーパーコンパネにカーソルが点灯します。

カーソル　選択している機能名が表示されます。

3 十字ボタンでカーソルを設定したい機能に移動します。

4 メインダイヤルまたはサブダイヤルで設定を変更します。

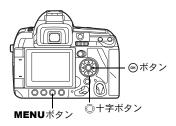
- ⓞボタンを押すと、カーソル位置のダイレクトメニューが表示されます。ダイレクトメニューで設定を変更することもできます。設定を変更してⓞボタンを押すと、設定が確定されます。また、数秒間何も操作しないと設定は確定され、スーパーコンパネ表示に戻ります。☞「ボタンON保持時間」(P.103)

ダイレクトメニュー

スーパーコンパネで設定できる機能については、「スーパーコンパネ」(☞P.7)をご覧ください。

メニューの操作

1 MENUボタンを押します。

- 液晶モニタにメニューが表示されます。

ボタンの操作ガイドが表示されます。

中止➡MENU ：**MENU**ボタンを押して設定を中止します。

選択➡ ：十字ボタンの を押してカーソルを移動し、選択肢を選びます。
表示されるマークは、以下の十字ボタンに該当します。

決定➡OK ：ⓞボタンを押して選択肢を決定します。

2 ⊙⊙でタブを選択し、⊙で設定します。

3 ⊙⊙で機能を選択し、⊙を押して各設定画面に進みます。

タブの種類

- 撮影に関する設定をします。
- 撮影に関する設定をします。
- 再生に関する設定をします。
- 撮影機能をカスタマイズします。カスタマイズする機能により、さらにA～Iの9つのタブに分類されています。
- カメラの基本的な機能を設定します。

タブを選んだときの画面

4 ⊙ボタンを押して、設定した内容を確定します。

- 繰り返し⊙ボタンを押して、メニューを終了します。

ダイヤル操作でメニューを選ぶ

- 十字ボタンだけでなくダイヤル操作で機能の選択をすることもできます。メインダイヤルを回すとカーソルが縦方向（⊙⊙の動作）に、サブダイヤルを回すと横方向（⊙⊙の動作）に移動します。

- 機能を選択してメインダイヤルを回し続けると、タブが自動的に切り換わり次のタブの機能が選択できます。

- メインダイヤルとサブダイヤルの動きを変更することもできます。☞「ダイヤル」（P.100）

メニューで設定できる機能については、「メニュー一覧」（☞P.155）をご覧ください。

ライブビューを使う

撮影する被写体を液晶モニタに表示します。露出やホワイトバランスの効果や構図を映し出しながら撮影することができます。
ライブビュー撮影中はファインダから入る光で露出が変わらないように、アイピースシャッターを閉じてください。☞「アイピースシャッター」（P.63）

1

設定方法と操作の基本

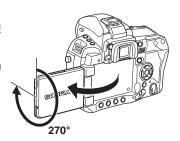
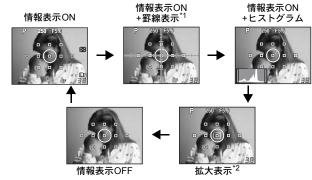
1 ボタンを押します。
- ミラーアップして液晶モニタに被写体が表示されます。
- アイピースシャッターを閉じることを示す画面が表示されます。

2 シャッターボタンを全押して撮影します。

ライブビュー中のピント合わせ
- ライブビュー中はシャッターボタンを全押ししたときにピント合わせをして撮影をします。ピント合わせをしている間は、ミラーダウンして液晶モニタの画像は止まります。
- あらかじめピント合わせをして撮影する時は、**AEL**/**AFL**ボタンを押しながらシャッターボタンを押します。ピントが合うと合焦マークが点灯します。点滅したときはピントが合っていません。
- AF方式がS-AFのときはピントが合わないと撮影されません。
- MFモードでも**AEL**/**AFL**ボタンを押してオートフォーカスを作動できます。

液晶モニタの角度を変えて撮影する

このカメラは液晶モニタの角度を変えることができます。見にくいアングルでも、液晶モニタで構図を確認しながら撮影できます。
- 液晶モニタは可動範囲内でゆっくりと動かしてください。

情報表示を切り換える

INFOボタンを繰り返して押して、液晶モニタに表示される情報を切り換えることができます。

*1 **[罫線表示]**を設定しているときに表示されます。☞「罫線表示」（P.106）
*2 拡大表示中の操作は、次の「拡大表示の操作」をご覧ください。

拡大表示の操作

被写体を拡大して、液晶モニタに表示することができます。MFで画像を拡大してピントの確認や調整をするのに便利です。

1 **十字ボタンで枠を移動し、OKボタンを押します。**

- 枠の部分が拡大表示されます。
- OKボタンの長押しで移動した拡大枠は中央に戻ります。

2 **メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して、倍率（5倍／7倍／10倍）を切り換えます。**

- OKボタンを押すと拡大表示は解除されます。

こんなときは

手ぶれ補正効果を確認したい：
→**IS**ボタンを押し続けます。☞「手ぶれ補正効果をライブビューで確認する」（P.66）
暗い場所でも被写体を液晶モニタで確認しやすくしたい：
→「LVブースト」（☞P.106）をご覧ください。

注意

- 画面内に高輝度の光源があると黒く表示されますが、撮影画像は正常に記録されます。
- 長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、ISO感度を高くした画像ではノイズや色むらが発生します。ISO感度を低くして撮影するかしばらく電源を切ってください。
- レンズを交換するとライブビューは停止します。
- ライブビュー中は以下の機能は使用できません。
  C-AF／AEロック／**[AEL/AFLモード]**

カメラを出荷時の設定に戻す

このカメラでは、変更した設定は、電源を切ってもリセットされません。カメラを出荷時の設定に戻すには**[リセット]**を実行します。**[リセット1]**・**[リセット2]**にあらかじめリセット内容を登録しておくこともできます。**[リセット1]**・**[リセット2]**には、登録時のカメラの設定内容が登録されます。登録される機能については、「マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能」(☞P.154)をご覧ください。

[リセット 1][リセット2]を登録する

メニュー **MENU ▸ [📷] ▸ [カスタムリセット設定]**

1 登録先([リセット1]または[リセット2])を選択し、▷を押します。

- すでに登録している場合、**[リセット1]**/**[リセット2]**に**[登録]**と表示されます。もう一度**[登録]**を選択すると、登録内容が上書きされます。
- 登録を解除する場合は**[クリア]**を選択します。

2 [登録]を選択し、Ⓞボタンを押します。

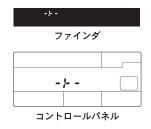
リセット操作

出荷時の設定に戻します。または、**[リセット1]**、**[リセット2]**の登録内容にリセットします。

[リセット]　：カメラを出荷時の設定に戻します。初期設定は「メニュー一覧」（☞P.155）をご覧ください。

[リセット1]/[リセット2]　：登録した内容にリセットします。

ダイレクトボタン　☒ + ISO

- ☒ボタンと**ISO**ボタンを同時に2秒間押すと、**[リセット]**が実行されます。
- 2つのボタンを同時に押しながらダイヤルを操作すると、リセットの内容を選ぶことができます。ボタンから指を離すとリセットが実行されます。

-ﾄ-　：リセット
-ﾄ- 1：リセット1
-ﾄ- 2：リセット2

メニュー　MENU ▸ [📷] ▸ [カスタムリセット設定]

1 [リセット]/[リセット1]/[リセット2]のいずれかを選択した状態で⊛ボタンを押します。

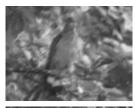
2 ⊙⊙で[実行]を選択し、⊛ボタンを押します。

1　設定方法と操作の基本

基本機能ガイド

子供や花、ペットなど身近な被写体に向けて何度もシャッターを切ってみる、これがカメラに慣れる一番の方法です。撮影した画像が上手に撮れていなかったら、以下を参考にいろいろ試してみましょう。撮影時にいくつか気をつけるだけで、満足のいく撮影ができるようになります。

ピント―シャッターボタンの操作

被写体にピントを合わせたつもりが、その前後や他のものにピントが合ってしまっていることがあります。狙った被写体に確実にピントを合わせて、画像のピンボケを防ぎましょう。シャッターボタンの押し方には、半押しと全押しがあります。半押しと全押しがうまく使えるようになると、動く被写体にもピントが合わせられます。

半押し：
全押し：
☞「撮影する」(P.16)、「フォーカスロック―ピントが合わないとき」(P.61)

ピントを正しく合わせていても、シャッターボタンを全押しする瞬間にカメラが動くと、ぶれた写真になってしまいます。これを手ぶれといいます。カメラの正しい構え方をマスターしましょう。ライブビューで液晶モニタを見ながら撮影しているときは、特にぶれやすくなります。手ぶれ補正機能を設定すると、手ぶれを抑えることができます。

☞「カメラの構え方」(P.17)、「手ぶれ補正」(P.66)

ピンボケや手ぶれの他、被写体が動いてしまってぶれた写真になる場合があります。これを被写体ぶれといいます。この場合、被写体の動きにあったシャッター速度で撮影します。シャッターボタンを半押しすると、実際にシャッターを切ったときのシャッター速度や絞り値が、ファインダやコントロールパネル、液晶モニタに表示されます。これらの表示を確認するようにしましょう。

☞「ファインダ」(P.5)、「コントロールパネル」(P.6)、「スーパーコンパネ」(P.7)、「液晶モニタ(ライブビュー)」(P.8)

明るさ—露出補正

カメラは、明るさに応じて自動的に絞り値やシャッター速度を決めます（自動露出）。しかし、自動露出だけでは自分が思い描いた写真にならないことがあります。このようなときは、自動露出の設定より明るく、または暗く露出を補正して撮影してみます。夏の浜辺の眩しさや雪の白さを際立たせたい場合は明るめに、撮りたい部分は明るくても画面を占める多くが暗い場合は暗めに露出補正します。露出補正の程度がわからないときは、設定を変えて何枚か撮影し、後で比べてみましょう。

☞「露出補正」（P.50）、「AEブラケット撮影」（P.51）

色—ホワイトバランス

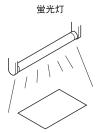
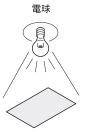
被写体を照らす照明は太陽光の他、電球や蛍光灯などいろいろなものがあります。これらの照明には、すべて固有の色があるため、同じ白いものを撮っても、照明によって異なった色で写ります。また、同じ太陽光でも晴天の空の下なのか、あるいは木や建物の陰などかによって違いがあります。このような照明の影響を自動的に修正し、正しい色で撮影するのがホワイトバランスの機能です。ほとんどの場合、ホワイトバランスは**[オート]**の設定で正しい色の表現ができますが、撮影状況によっては意図した色合いにならない場合があります。そのときは設定を変えてみましょう。

☞「ホワイトバランスの選択」（P.69）

蛍光灯

電球

木陰

使いやすくする—カスタマイズ

このカメラは撮影のための機能を多数備えており、さらにその機能を自分が使いやすいように、設定することができます。
たとえば、同じ被写体を同じ設定で時間をおいて何回か撮影したい場合など、その設定をマイモードとして登録しましょう。撮影時、登録したマイモードを撮影モードとして簡単に呼び出すことができます。
シャッターを切る構図とは違うところでピントを合わせたいときは、**[AEL/AFLモード]** を設定すると、**AEL/AFL** ボタンを押してピント合わせを行った状態でシャッターボタンを半押しして露出を固定する、ということもできます。
また、ダイヤルや **Fn** ボタンに割り当てる機能を変える、ダイレクトボタンが押された状態を保持する時間を変更するなどして、自分好みの操作性を実現することができます。

☞「マイモード設定」(P.103)、「マイモード撮影」(P.47)、「AEL/AFLモード」(P.101)、「Fnボタン機能」(P.102)、「ボタンON保持時間」(P.103)

被写体別機能ガイド

被写体に応じて、どのような撮影でどのような機能が有効か紹介します。

風景を撮る

ここでは、日中の森や湖、海辺などの景色を対象にした撮影を紹介します。

撮影モードを変える

静寂が伝わるような静的風景、躍動感を感じさせる動的風景。動きをどのように表現するかで、撮影方法も変わります。

- 森の深さを表現するには画面の広い範囲でピントを合わせます。**A**（絞り優先撮影）モードにして、できるだけ絞り込んで（絞り値を大きくして）撮影します。
- 海岸で激しく砕ける白波の一瞬を捉えるには、**S**（シャッター優先撮影）モードにしてシャッター速度を高速にします。滝や渓流の流れを表現するには、シャッター速度を長秒時にして撮影します。

それぞれの撮影モードで露出補正することができます。撮影した画像を確認しながら、+（プラス）や−（マイナス）に補正して、より表現を深めましょう。

ホワイトバランスを変える

同じ水辺でも、木々の緑を映した湖とさんご礁に囲まれた海では、その色合いは異なります。微妙な色の違いを表現するには、ホワイトバランスの設定を変えてみましょう。晴天のときは**[☼5300K]**、晴天時の日陰では**[⌂7500K]**といったように設定を変えて撮影してみます。

測光モードを変える

海は深度や太陽の方向で、同じ構図内でも部分によって明るさはかなり違います。また、森も木々の重なり具合で明るさは均一ではありません。構図内で露出を重視したい部分が明確なときは、測光モードを変えてみましょう。**[ESP]**（デジタルESP測光）は、構図内の明るさをカメラが自動的に判断して露出を決めます。構図内で特定部分の露出を重視したい場合は、**[中央重点]**（中央重点平均測光）や**[スポット]**（スポット測光）に変更し、露出を合わせたい部分に測光エリアを合わせて露出を測ります。

彩度を変える

ホワイトバランスや露出補正を使っても、色合いがうまく出せない場合があります。**[彩度]**の設定を変えて自分でイメージした色合いに近づけてみましょう。**[彩度]**の設定値は、高低それぞれ2段階あります。**[彩度]**を高くすると鮮やかな色合いになります。

☞「絞り優先撮影」（P.44）、「シャッター優先撮影」（P.45）、「測光方式の変更」（P.49）、「露出補正」（P.50）、「ホワイトバランスの選択」（P.69）、「**[彩度]**：色の鮮やかさ」（P.74）

花を撮る

一輪の花と一面に咲き誇る花畑、深紅のばらと淡い色合いのスィートピー。どのように表現したいかによって撮影方法も変わります。

AFターゲットのサイズを変える

花弁にピントを合わせて表現したい、密集する花々の中の1輪の花にピントを合わせたい場合は、ピントが合う範囲を小さく設定してみましょう。
初期設定では、AFターゲット枠よりやや広い範囲でピント合わせを行いますが、**[AFターゲットサイズ]**設定により枠内だけでピント合わせを行います。

ホワイトバランスを変える

花の色は、淡いものから鮮やかなものまで多種多様です。色によっては微妙な色合いが見た目の通りに写らないことがありますので、光の当たり具合をみてホワイトバランスの設定を変えてみましょう。**[オート]**は、カメラが光の種類を判断するので正しく写りますが、晴天のときは**[☼5300K]**、晴天時の屋外の日陰では**[⌂7500K]**といったように状況に応じて設定を変えると、微妙な色合いをうまく引き出すことができます。

露出補正を使う

背景を入れて撮るときは、花の形や色が際立って写るよう、できるだけ単純な背景を選びます。明るい白っぽい色の花を撮るときは、暗い背景に花が浮かび上がって写るように露出補正を－（マイナス）に補正してみましょう。

撮影モードを変える

一輪の花を強調して撮るか花畑を撮るかによって撮影方法が変わります。ピントが合う範囲を変えて撮影する場合は、**A**（絞り優先撮影）モードに設定して絞り値を選んで撮影します。

- 絞りを開ける（絞り値を小さくする）と被写界深度（ピントの合う範囲）が浅くなり、背景がぼけて被写体が強調されます。
- 絞り込む（絞り値を大きくする）と被写界深度が深くなり、広い範囲にピントが合った写真になります。

絞りを変えた被写界深度の変化は、プレビュー機能で確認することができます。

ライブビューを使う

通常、レンズ交換式デジタル一眼レフカメラは、露出補正やホワイトバランスを変更しても、実際に撮影して画像を再生しないと、その効果を確認することができません。本機ではライブビュー機能を使って、撮影する被写体を液晶モニタに映し出しながら撮影することができます。

レンズを換える

花が少なくまばらな場合は、望遠レンズにして撮影してみましょう。望遠レンズを使うと、実際の距離よりも遠近感が弱められ、花が密集して咲いているように撮ることができます。ズームレンズの望遠側でも同じ効果がありますが、54 mmよりは150 mm、さらに200 mmといったように焦点距離が長いほど、効果を得やすくなります。

☞「AFターゲットサイズ」(P.99)、「絞り優先撮影」(P.44)、「ライブビューを使う」(P.32)、「プレビュー機能」(P.48)、「露出補正」(P.50)、「ホワイトバランスの選択」(P.69)

夜景を撮る

日が沈んだ直後の残照がある夕暮れ、都会の街灯やイルミネーション、夜空に広がる花火など、様々な夜景があります。

三脚を使う

夜景の撮影では、暗いためシャッター速度が遅くなるので三脚は必需品です。三脚がない場合はカメラを安定した場所に置くなどして、ぶれないようにします。カメラを固定していても、シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまうことがありますので、リモコンやセルフタイマーの使用をおすすめします。

撮影モードを変える

夜景は明るさに強弱があり、構図内の明るさのバランスは均一ではありません。まずは**A**（絞り優先撮影）モードにして撮影してみましょう。絞りは全体の中間（F8やF11くらい）に設定し、シャッター速度はカメラ任せにします。夜景の撮影では、構図内の多くを占める暗い部分に合わせた露出に設定され、白っぽい画像（露出オーバー）になることが多いので、露出補正値を-1または-1.5にします。**[撮影確認]**で画像を確認しながら、絞りや露出補正値を変えて撮ります。
長秒時の撮影は、画像にノイズが発生しやすくなります。**[ノイズリダクション]**を**[ON]**に設定すると、ノイズを抑えることができます。

マニュアルフォーカスを使う

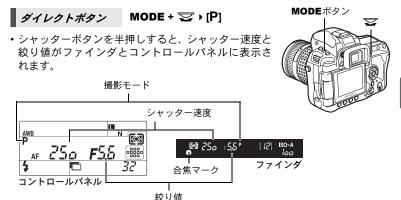
被写体が暗いためにAF（オートフォーカス）ではピントが合わなかったり、花火のようにピント合わせが間に合わない場合は、AF方式を**[MF]**（マニュアルフォーカス）に設定して手動でピントを合わせます。夜景の場合はレンズのピントリングを回しながら、街灯がはっきり見えるかどうかを確認します。花火の場合、長焦点レンズ以外は無限遠に合わせます。おおよその距離がわかれば、あらかじめ同じくらいの距離にあるものでピントを合わせておくこともおすすめです。

☞「プログラム撮影」（P.43）、「絞り優先撮影」（P.44）、「リモコン撮影」（P.64）、「AF方式の選択」（P.55）、「ノイズリダクション—長秒時の画像ノイズを軽減する」（P.76）、「撮影確認」（P.112）

プログラム撮影 P

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定する自動露出モードです。

ダイレクトボタン **MODE +** ▸ **[P]**

- シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度と絞り値がファインダとコントロールパネルに表示されます。

プログラムシフト（Ps）

P モードのときメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回すと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できます（プログラムシフト）。☞「プログラム線図（**P** モード）」（P.148）

- プログラムシフトは、撮影した後でも解除されません。解除するには、ファインダやコントロールパネルの撮影モード表示 **Ps** が、**P** に変わるまでメインダイヤル（またはサブダイヤル）を回します。または、カメラの電源を一度切ります。
- フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。

こんなときは

シャッター速度と絞り値が点滅している：

→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.149）をご覧ください。

右手の操作だけで撮影モードを切り換えたい：

→ **Fn** ボタンとダイヤルの操作で撮影モードを切り換えることができます。☞「**Fn** ボタン機能」（P.102）

絞り優先撮影 A

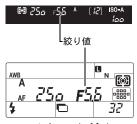
絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定するオート露出モードです。絞りを開く（絞り値の数値を小さくする）ほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞りを絞る（絞り値の数値を大きくする）ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。背景のボケ具合は、プレビュー機能で確認することができます。☞「プレビュー機能」（P.48）

絞り値（F値）を小さくしたとき

絞り値（F値）を大きくしたとき

ダイレクトボタン　MODE + ▸ [A]

- メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回して絞り値を設定します。

ファインダ

コントロールパネル

こんなときは

設定した絞り値での被写界深度を確認したい：
→「プレビュー機能」（☞P.48）をご覧ください。

露出の調整間隔を変更したい：
→1/3EV、1/2EV、1EVステップに設定できます。☞「露出ステップ」（P.106）

シャッター速度が点滅している：
→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.149）をご覧ください。

シャッター優先撮影　S

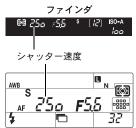
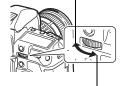
シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定するオート露出モードです。シャッター速度を速くして動きの中の一瞬をとらえたり、シャッター速度を遅くして躍動感を表現することができます。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影されます。

シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

3 露出

ダイレクトボタン　MODE + [dial] ▸ [S]

- メインダイヤル（またはサブダイヤル）を回してシャッター速度を設定します。

シャッター速度が遅くなります

シャッター速度が速くなります

こんなときは

画像がぶれる：

→近接撮影や超望遠撮影では、画像がぶれやすくなります。シャッター速度をより速く設定するか、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに設定できます。☞「露出ステップ」（P.106）

絞り値が点滅している：

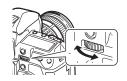
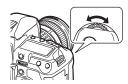
→適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（☞P.149）をご覧ください。

マニュアル撮影 M

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出との差は露出レベルインジケータで確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。

ダイレクトボタン **MODE + [dial] ▸[M]**

絞り値：メインダイヤルを回して設定します。

シャッター速度：サブダイヤルを回して設定します。

- 絞りの設定範囲はレンズにより異なります。
- シャッター速度は1/8000～60秒に設定できます。
- **M**モードでは露出レベルインジケータが表示されます。設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が、-3EV～+3EVの範囲で表示されます。±3EVを超える場合は、インジケータ全体が点滅します。

– 0 + 露出アンダー

– 0 + 露出オーバー

– 0 + 適正露出

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生する場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、長秒時の露出で顕著に現れます。これらのノイズを軽減するために、このカメラはノイズリダクションが働きます。

☞「ノイズリダクション―長秒時の画像ノイズを軽減する」（P.76）

3 露出

こんなときは

画像がぶれる：

→シャッター速度を遅くして撮影するときは、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

露出の調整間隔を変更したい：

→1/3EV、1/2EV、1EVステップに設定できます。☞「露出ステップ」（P.106）

メインダイヤルとサブダイヤルの操作を入れ換えたい：

→ダイヤルで設定する機能を入れ換えることができます。☞「ダイヤル」（P.100）

注意

- **M**モードでは、露出補正はできません。

バルブ撮影 B

シャッターボタンを押している間露光し続けるバルブ撮影を行います。
別売のリモコン（RM-1）またはリモートケーブル（RM-CB1）を使ってバルブ撮影することもできます。☞「リモコンによるバルブ撮影」（P.65）

ダイレクトボタン **MODE + ▸[B]**

- ファインダ、コントロールパネルにbuLbと表示されます。

buLb

こんなときは

一定時間経過後、バルブ撮影が自動で終了するようにしたい：

→バルブ撮影の最長時間を設定できます。☞「BULBリミッター」（P.107）

MFで撮影中にフォーカスが動かないようにしたい：

→露光中にフォーカスリングを回してもピントが動かないようにすることができます。☞「BULB中MF」（P.99）

注意

- **B**モードでは、以下の機能は使用できません。
  手ぶれ補正／連写／セルフタイマー撮影／AEブラケット撮影／フラッシュブラケット撮影

マイモード撮影

[マイモード設定]で登録した設定内容で撮影します。2通りの撮影設定をそれぞれ**[マイモード1]**、**[マイモード2]**として登録しておきます。
☞「マイモード設定」（P.103）

ダイレクトボタン **MODE + ▸[My1]/[My2]**

設定中の表示

-1- P

My1に**P**モードが登録されている場合

-2- S

My2に**S**モードが登録されている場合

水中ワイド／水中マクロ撮影

このカメラには水中撮影に適した撮影設定が用意されています。（水中ワイド）は水中での風景撮影に、（水中マクロ）は水中で被写体に近づいて撮影するときに適しています。
水中ワイド、水中マクロを撮影モードとして使うには、**[Fnボタン機能]**の設定を**[/]**にする必要があります。「Fnボタン機能」（P.102）

ダイレクトボタン **MODE + ▸ [ ]/[ ]**

設定中の表示

Sc 1 P の場合

Sc2 P の場合

注意
- 水中撮影では市販の防水プロテクタを装着してください。
- /モードでは、以下の機能は使用できません。
[カスタムリセット設定]／**[仕上がり]**／**[マイモード設定]**

プレビュー機能

実際に絞りを動作させて、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。

プレビューボタンを押すと、設定された絞り値まで絞り込まれます。
- **Fn**ボタンでもプレビュー操作ができます（初期設定）。
- **[Fnボタン機能]**を**[ライブプレビュー]**に設定しているときには、**Fn**ボタンを押すと自動的にライブビューになり、液晶モニタで確認することができます。
「Fnボタン機能」（P.102）

プレビューボタン

3 露出

測光方式の変更

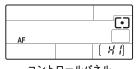
このカメラはデジタルESP測光、中央重点平均測光、スポット測光など5つの測光方式を備えています。撮影するシーンに応じて選択してください。

ダイレクトボタン	+
スーパーコンパネ	▶ ：**[測光]**
メニュー	**MENU** ▶ **[2]** ▶ **[測光]**

ボタン

ボタン

MENUボタン

設定中の表示

ファインダ

コントロールパネル

：デジタルESP測光
：中央重点平均測光
：スポット測光
HI ：スポット測光ハイライトコントロール
SH ：スポット測光シャドウコントロール

デジタルESP測光
画面を49分割測光し、それぞれの輝度、輝度差などを考慮して露出を演算します。通常はこのモードをおすすめします。AF連動機能を**[AF連動ON]**にすると、AFでピントを合わせたAFターゲットを中心に測光するパターンが稼動します。

中央重点平均測光
画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。周辺部の輝度を露出に影響させたくないときに使います。

スポット測光
画面中央の狭い範囲を測光します。デジタルESP測光で補正しきれないような強い逆光シーンなどに適しています。

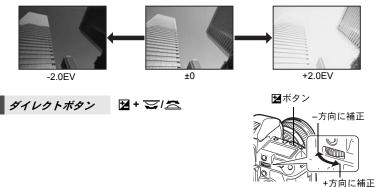
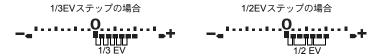
：測光範囲

HI スポット測光ハイライトコントロール
測光したポイントの露出がオーバーになるように設定します。白い被写体を白く表現したいときに使います。測光範囲はスポット測光と同じです。

SH スポット測光シャドウコントロール
測光したポイントの露出がアンダーになるように設定します。黒い被写体を黒く表現したいときに使います。測光範囲はスポット測光と同じです。

露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、+に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に–に補正すると効果的です。露出は±5.0EVの範囲で補正できます。

ダイレクトボタン

- 露出補正インジケータが表示されます。露出補正が0のときは、露出補正インジケータは表示されません。

- 補正範囲が露出補正インジケータをオーバーしているとき、ファインダとコントロールパネルのインジケータが点滅します。スーパーコンパネのインジケータは左右端に赤い◀▶が表示されます。

こんなときは

露出の調整間隔を変更したい：

→補正ステップは1/3EV、1/2EV、1EVから選択できます。☞「露出ステップ」（P.106）

ダイヤル操作だけで露出補正をしたい：

→ボタンを押さないで露出補正が設定できるようにできます。☞「ダイヤル」（P.100）

注意

- **M**、**B**モードでは、露出補正はできません。

AEロック

AEL

AEL/AFLボタンを使用すると、測光して検出した露出値を固定（AEロック）できます。露出を撮影する構図とは別に決めたいときに使います。
通常は、シャッターボタンの半押しでAF（ピント）とAE（露出値）の両方が固定されますが、**AEL/AFL**ボタンを押して露出のみを固定することができます。

測光値を固定したいところでAEL/AFLボタンを押すと、露出が固定されます。AEL/AFLボタンを押している間は露出が固定されるので、そのままシャッターボタンを押します。

• **AEL/AFL**ボタンを離すと、AEロックが解除されます。

AEL/AFLボタン

AEロック

ファインダ

こんなときは

露出を固定したい：

→**AEL/AFL**ボタンから指を離しても、測光した状態を固定することもできます。☞「AEL/AFL MEMO」（P.101）

AEL/AFLボタンとシャッターボタンを同時に押しにくい：

→**AEL/AFL**ボタンと**Fn**ボタンの機能を交換することができます。
☞「AEL/AFL⇌Fn」（P.103）

決まった測光方式でAEロックしたい：

→AEロックで露出を固定するときの測光方式を設定しておくことができます。
☞「AEL測光モード」（P.107）

AEブラケット撮影

1コマごとに自動的に露出を変えて撮影します。露出をどの程度変化させるか（露出量と補正ステップ）を設定できるので、逆光や夕景などの適正露出を得にくい条件や露出補正量に迷ったときでも、気に入った一枚を残すことができます。適正～–補正～+補正の順に撮影されます。

例）BKT設定が**[3F 1.0EV]**の場合

-1.0EV

±0

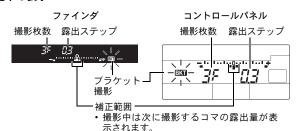
+1.0EV

補正量：0.3・0.7・1.0

• 補正量は露出ステップを変更すると変わります。☞「露出ステップ」（P.106）

撮影枚数：3枚／5枚

ダイレクトボタン	MODE + AF ▸ ⌣/⌢
メニュー	MENU ▸ [📷2] ▸ [AE BKT]

設定中の表示

撮影します。

- 単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、露出を変えて撮影します。
- 連写モードでは、設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。
- シャッターボタンから指を離すと、ブラケット撮影が一時中断されます。一時中断したときはファインダとコントロールパネルにBKTが点滅し、スーパーコンパネにBKTが緑で表示されます。

露出モードによる補正の方法

設定している露出モードによって、AEブラケット撮影で補正される方法が異なります。

Pモード：絞り値とシャッター速度
Aモード：シャッター速度
Sモード：絞り値
Mモード：シャッター速度

こんなときは

補正した露出を中心にAEブラケット撮影をしたい：

→露出補正値を設定した状態で、AEブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてAEブラケット撮影が行われます。

ISO感度の設定　ISO

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところでの撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ画像が粗くなります。

ダイレクトボタン	**ISO + 〔ダイヤル〕/〔ダイヤル〕**
スーパーコンパネ	〔OK〕 ▶ 〔十字ボタン〕 : **[ISO感度]**
メニュー	**MENU ▶ [〔撮影メニュー〕] ▶ [ISO感度]**

〔ダイヤル〕　**ISO**ボタン　〔ダイヤル〕

MENU ボタン

〔OK〕ボタン

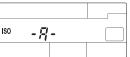
[AUTO]　：撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。ISOオート設定で、基準値（適正露出が得られる撮影状況で通常使用する値）と上限値（自動的に変わる感度の上限値）を設定できます。☞「ISOオート設定」(P.106)

[100～3200]：ISO感度を固定します。ISOステップは1/3EVまたは1EVステップで設定します。☞「ISO感度ステップ」(P.106)

設定中の表示

ファインダ　　コントロールパネル

ISO-A
100

オートのときは基準値が表示されます。

	ファインダ	コントロールパネル
オート：	ISO-A	-A-
100：	100	100
≀	≀	≀
3200：	3200	3200

• 125、1250はファインダでは120、1200と表示されます。

こんなときは

Mモードでも自動的に適正ISOになるようにしたい：

→通常、オートの設定は**P**/**A**/**S**モードで有効ですが、すべての撮影モードで使えるようにすることができます。☞「ISOオート有効」(P.107)

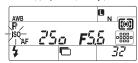
3

露出

設定後の表示

ファインダ

オートに設定しているときは、ISO-Aとカメラが判断したISO値が表示されます。オート以外の設定ではISOと設定値が表示されます。2000以上に設定するとISOが点滅します。

コントロールパネル

オート以外の設定ではISOと表示されます。2000以上に設定するとISOが点滅します。

3

露出

ISOブラケット撮影

撮影時のシャッター速度と絞り値を固定したまま、ISO感度を自動的に変えてブラケット撮影します。1回の撮影で露出の異なる3枚の画像が、設定したISO感度（オート設定時は適正ISO）〜–補正〜+補正の順に記録されます。

補正量：0.3・0.7・1.0

• ISOステップの設定に関わらず、補正量は1/3EVステップになります。

撮影枚数：3 枚

メニュー **MENU ▸ [2] ▸ [ISO BKT]**

注意

• **[ISOオート設定]**で設定した上限値とは関係なくブラケット撮影が行われます。

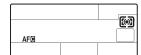
AF方式の選択

AF

フォーカスモードにはS-AF、C-AF、MFの3つのモードがあります。
S-AFとMF、C-AFとMFを組み合わせて撮影することもできます。

ダイレクトボタン	AF + (ダイヤル)
スーパーコンパネ	(OK) ▸ (十字ボタン)：[AF方式]
メニュー	MENU ▸ [カメラ2] ▸ [AF方式]

設定中の表示

ファインダ　　　　コントロールパネル

S-AF　　：S.AF　　　　AF
C-AF　　：C.AF　　　　AFⒸ
MF　　　：　　　　-F　MF
S-AF+MF：S.AF　-F　MFAF
C-AF+MF：C.AF　-F　MFAFⒸ

S-AF（シングルAF）

シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。
ピントがうまく合わなかったときは、シャッターボタンを離してもう一度半押ししてください。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。

シャッターボタンを半押しします。
- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。

ファインダ

250 F5.6 P [12] ISO-A 100

合焦マーク

こんなときは

暗い場所だとAFではピントを合わせにくい：

→内蔵フラッシュをAFイルミネータとして機能させると、AFではピントが合わせにくい暗いところでもピントが合います。☞「AFイルミネータ」（P.98）

AF方式をすばやくMFモードに切り換えたい：

→Fnボタンに[MF切換]を登録すると、Fnボタンを押すだけでMFモードに切り換えられます。☞「Fnボタン機能」（P.102）

ピントが合わない状態でも撮影できるようにしたい：

→「レリーズ優先S、レリーズ優先C」（☞P.104）をご覧ください。

ファインダ内のAFターゲット合焦点灯を消したい：

→ピントが合うとファインダ内でAFターゲットが赤く点灯します。点灯しないようにすることもできます。☞「AFターゲット表示」（P.98）

C-AF（コンティニュアスAF）

シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。被写体が動いている場合は、予測してピントを合わせます（動体予測）。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。

シャッターボタンを半押しし続けます。

- 被写体にピントが合い、固定されると、ファインダに合焦マークが点灯します。
- ピントが合ってもAFターゲットは点灯しません。
- カメラはピント合わせの動作を繰り返し、被写体が移動したり構図を変えても、ピントを追います。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。3回目のAFからは、ピントが合っても音はしません。

こんなときは

被写体の前を何かが横切った場合でもピント合わせしてしまうのが煩わしい：

→被写体距離が変化しても、すぐに追従してピント合わせしないように設定できます。☞「AFロックオン」（P.98）

MF（マニュアルフォーカス）

ファインダをのぞきながら、任意の位置に手動でピントを合わせることができます。

フォーカスリングを使って、ピントを合わせます。

こんなときは

フォーカスリングの回転方向を変えたい：

→フォーカスリングの回転方向を選択し、ピントの移動方向を切り換えることができます。☞「フォーカスリング」（P.98）

ピントが合っているか知りたい（フォーカスエイド）：

→フォーカスリングを回してピントが合うと、合焦マークが点灯します。**[AFターゲット選択]**で**[::::]**を設定している場合は、中央のAFターゲットでのピントが選択されます。

S-AFモードとMFモードの併用（S-AF+MF）

S-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。シャッターボタンを押していないときは、MF動作ができます。

- シャッターボタンを半押ししてAFが合ったら、フォーカスリングを回してピントの微調整ができます。シャッターボタンを半押ししないときも、フォーカスリングを回して微調整できます。

注意

- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AF が作動し、微調整はキャンセルされます。

C-AFモードとMFモードの併用（C-AF+MF）

あらかじめフォーカスリングでピント合わせをしておいて、シャッターボタンを半押しするとC-AFモードの動作をします。

- シャッターボタンを押している間は、MFは使用できません。
- シャッターボタンを押していないときは、MFでピント合わせできます。

こんなときは

C-AFモードでも手動でピントの微調整をしたい：

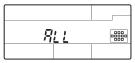
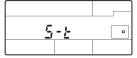
→**AEL/AFL**ボタンで手動でC-AFが動作するように設定できます。☞「AEL/AFLモード」（P.101）

注意

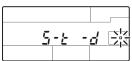
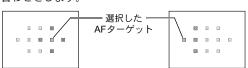
- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AF が作動し、微調整はキャンセルされます。

AFターゲットの選択

このカメラは、オートフォーカスで被写体にピントを合わせるためのAFターゲットが11点あります。被写体や構図にあわせて最適なAFターゲットモードを選択して撮影します。
AFターゲットモードは、すべてのAFターゲットを使ってAFを行う「オールターゲットAFモード」と、選択した1点を中心にAFを行う「シングルターゲットAFモード」があります。

[::::]オールターゲットAFモード
11点のAFターゲットの中から一番手前にある被写体にあわせて、カメラが自動的にピント合わせをします。動き回る被写体やピント合わせをカメラまかせにして撮影するときに適しています。

[・]シングルターゲットAFモード
([・]sスモールシングルターゲットAFモード)
選択した1つのAFターゲットでピント合わせをします。構図を決めて正確にピント合わせをしたいときに便利です。**[・]**では1点のAFターゲットよりやや広い範囲でピント合わせをしますが、その範囲をAFターゲット内のみに設定することもできます。**[AFターゲットサイズ]**で**[小]**を選択すると、選択肢の表示が**[・]s**になります。☞「AFターゲットサイズ」(P.99)

[·:·]ダイナミックシングルターゲットAFモード
選択した1つのAFターゲットでピント合わせができない場合は、隣り合ったAFターゲットでピント合わせをします。

4
ピント合わせ/撮影機能

ダイレクトボタン　[▪▪▪] + ダイヤル

- ボタンから指を離すと現在設定しているAFターゲットが点灯します。[·]または[·⁝·]の場合は、その状態から使用するAFターゲットを選択できます。操作については、次項「AFターゲットの位置を選択する」（☞P.59）の手順2をご覧ください。

スーパーコンパネ　OK ▸ 十字ボタン：[AFターゲット選択] ▸ [▪▪▪] + ダイヤル

- [·]または[·⁝·]設定時は、ダイヤルを回してAFターゲットを選択します。

メニュー　MENU ▸ [撮影2] ▸ [AFターゲット選択]

- [·]または[·⁝·]設定時は、十字ボタンでAFターゲットを選択します。

AFターゲットの位置を選択する

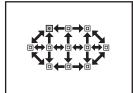
シングルターゲットAFモードで使用するAFターゲットを選択します。

1 [▪▪▪] ボタンを押して指を離すと、AF ターゲットを選択できる状態になります。

2 メインダイヤルまたはサブダイヤル、十字ボタンを操作して、AFターゲットを選択します。

- メインダイヤルは 上下 方向、サブダイヤルは左右方向に移動します。
- AF ターゲットを選択するときのダイヤルと十字ボタン操作の動きを変更することができます。☞「[▪▪▪]循環選択」（P.99）
- OKボタンを押すとAFターゲットの位置が中央に戻ります。

4

ピント合わせ／撮影機能

AFターゲットモードを登録する

よく使うAFターゲットモードと、そのAFターゲットの位置を登録しておくことができます。登録した状態（ホームポジションと呼びます）を瞬時に呼び出して撮影することができます。

登録する

1 「AFターゲットの位置を選択する」(☞P.59) の手順2の画面で、Fn ボタンと ボタンを同時に押します。

- ボタンを押したときの状態でホームポジションが登録されます。
- メニューから操作した場合はホームポジションの登録はできません。

登録中であることを示します。

撮影する

この機能を使うには、あらかじめ Fn ボタンに [[▪▪▪]HOME] 機能を割り当てておきます。☞「Fn ボタン機能」（P.102）

1 Fn ボタンを押します。

- 登録したホームポジションになります。再度押すと、元の AF ターゲットモードに戻ります。

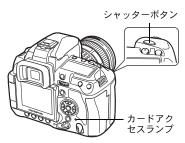
注意

- ホームポジション登録では、AFターゲットサイズの状態は記憶されません。

フォーカスロック―ピントが合わないとき

被写体が画面中央にないときなど、オートフォーカスではピントが合わないことがあります。このような場合の簡単な対処方法にフォーカスロックがあります。被写体が11点のAFターゲットから外れる構図のときやオートフォーカスが苦手な被写体で使用します。

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットを合わせ、シャッターボタンを合焦マークが点灯するまで半押しします。

- ピントが固定されます。AF合焦マークと、ピントの合ったAFターゲットがファインダで点灯します。
- 合焦マークが点滅したときは、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- シャッターボタンを操作している間は、スーパーコンパネが消えます。

例）中央の AF ターゲットでピント合わせをする場合

2 半押しした状態のまま、撮影したい構図に移し全押しします。

- カードアクセスランプが点滅し、画像がカードに記録されます。

被写体のコントラストが弱いとき

明るさが不足している、霧などで被写体がはっきり見えないなど、被写体のコントラストが弱い場合はピントが合わないことがあります。被写体と等距離でコントラストのはっきりしたものでフォーカスロックし、そのまま構図を決めて撮影してください。

連写

単写	一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます（通常の撮影モード、1コマ撮影）。
連写H	シャッターボタンを押している間、約5コマ／秒で連続撮影できます（JPEG時）。
連写L	シャッターボタンを押している間、設定した速度（☞「L設定」（P.104））で連続撮影できます。

- 連写のときは、シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指を離すと連写は止まります。
- ピント・露出・ホワイトバランスは、最初の1コマで固定されます（S-AF、MF時）。

注意

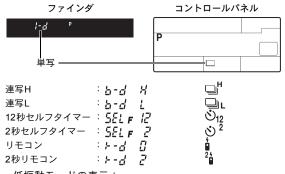
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

設定方法

ダイレクトボタン +

スーパーコンパネ OK ▸ : [ ]

設定中の表示

連写H	： b-d H	H
連写L	： b-d L	L
12秒セルフタイマー	： SELF 12	12
2秒セルフタイマー	： SELF 2	2
リモコン	： r-d 0	
2秒リモコン	： r-d 2	2

- 低振動モードの表示：
  ファインダ・コントロールパネルでは表示の点滅が、スーパーコンパネでは◆マークが低振動モードであることを示します。

4 ピント合わせ／撮影機能

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから、12秒後にシャッターが切れるセルフタイマーと、2秒後にシャッターが切れるセルフタイマーがあります。セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。
設定方法は「連写」(☞P.62)をご覧ください。

シャッターボタンを全押しします。

セルフタイマーランプ

- 撮影されます。
- 12sの場合:セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- 2sの場合 :セルフタイマーランプが約 2 秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、/ / ボタンを押します。

注意

- カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

アイピースシャッター

ファインダから顔を離して撮影するときは、ファインダから入る光で露出が変わらないように、アイピースシャッターを閉じてファインダを塞ぎます。アイピースシャッターレバーを上げてください。

アイピースシャッターレバー

4 ピント合わせ/撮影機能

リモコン撮影

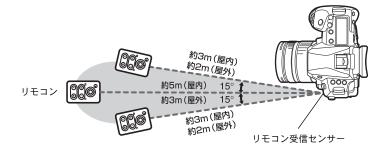
別売のリモコン（RM-1）を使って撮影します。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。
リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れるモードと2秒後にシャッターが切れるモード（2秒タイマー）の2つがあります。またリモコンバルブ撮影も可能です。
設定方法は「連写」（☞P.62）をご覧ください。

カメラを三脚などでしっかりと固定し、リモコンをカメラのリモコン受信センサーに向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

- **0s**の場合　：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅して、シャッターが切れます。
- **2s**の場合　：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

リモコンの有効範囲

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信センサーに太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプが近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、受信しにくくなることがあります。

4
ピント合わせ／撮影機能

こんなときは

リモコンのシャッターボタンを押してもリモコンランプが点滅しない：

→リモコン受光部に強い光があたっているので、リモコン信号が届いていません。カメラに近付いて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンモードを解除したい：

→リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。/ / ボタンを押して、[ ]（単写）などに設定してください。

カメラのシャッターボタンを使って撮影したい：

→リモコンモードでも、カメラのシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。

注意

- ピントが合わないときは、シャッターが切れません。
- 明るいときは、リモコンランプの点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
- リモコンを使ってのズーム操作はできません。

リモコンによるバルブ撮影

撮影モードを**[B]**に設定します。☞「バルブ撮影」（P.47）

Wボタンを押すとシャッターが開きます。
「BULBリミッター」（☞P.107）で設定した時間が経過すると、自動的にシャッターが閉じます。

Tボタンを押すとシャッターが閉じます。

低振動モード

ミラーアップ後、少し時間を空けてシャッターが切れるように設定できます。カメラぶれを最小限に抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影など、ミラーアップのショックが気になる場面で使います。

1 **MENU ▸ [2] ▸ [低振動モード[ ]]**

2 **ミラーアップ後から撮影されるまでの時間を1〜30秒から選択し、OKボタンを押します。**

3 **撮影機能（単写／連写／セルフタイマー撮影／リモコン撮影）に低振動モードがそれぞれ追加されます。設定方法は「連写」（☞P.62）をご覧ください。**

4
ピント合わせ／撮影機能

手ぶれ補正 IS

被写体が暗い場面や、高倍率撮影などで起きやすい手ぶれを抑えることができます。

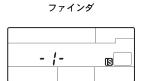
OFF 手ぶれを補正しません。
I.S. 1 手ぶれを補正します。
I.S. 2 横方向の流し撮りをするときに使います。横方向の手ぶれ補正機能を停止し、縦方向の手ぶれのみ補正します。

1 ISボタンを押して指を離してから、ダイヤル操作して設定します。

設定中の表示

ファインダ

コントロールパネル

oFF IS：OFF
-1- IS：I.S. 1
-2- IS：I.S. 2

ISボタン

手ぶれ補正効果をライブビューで確認する

ライブビュー中にISボタンを押している間は、設定している手ぶれ補正の効果を液晶モニタで確認できます。その状態でシャッターボタンを全押しして、撮影することもできます。

- **[手ぶれ補正]**を**[OFF]**に設定していても、ISボタンを押している間は**[I.S. 1]**が働きます。
- ISボタンから指を離すか、または押したまま数秒間経過すると、手ぶれ補正機能は停止します。

緑色：手ぶれ補正機能起動中
赤色：手ぶれ補正機能エラー

注意

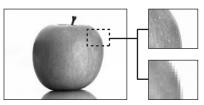
- 手ぶれが大きすぎるときやシャッター速度が極端に遅い場合、手ぶれが補正しきれないことがあります。このときは三脚を使用して撮影してください。
- 三脚使用時は**[手ぶれ補正]**を**[OFF]**に設定してください。
- 手ぶれ補正機能付きのレンズを使用している場合は、レンズまたはカメラのいずれかの手ぶれ補正機能をオフにしてください。
- 電源を切ったときに、手ぶれ補正機構の初期化動作が行われます。このときカメラが振動しますが、故障ではありません。
- 液晶モニタにIS1が赤く点灯したときは、手ぶれ補正機能の故障です。その状態で撮影すると、構図がずれることがあります。当社修理センターまたはサービスステーションにご相談ください。

画質モードの選択

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードを選択します。

記録形式

JPEG

JPEG形式の画像では、画像サイズ（L、M、S）と圧縮率（SF、F、N、B）の組み合わせを選択します。画像はピクセル（点）の集まりでできていて、ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は1枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、カードに記録できる枚数が少なくなります。また圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

画像サイズが大きい場合

画像サイズが小さい場合

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる ↑

用途	画像サイズ	ピクセルサイズ	圧縮率			
			SF (Super Fine) 1/2.7	F (Fine) 1/4	N (Normal) 1/8	B (Basic) 1/12
プリントサイズに合わせて選択	L (Large)	3648 × 2736	LSF	LF	LN	LB
	M (Middle)	3200 × 2400	MSF	MF	MN	MB
		2560 × 1920				
		1600 × 1200				
	S (Small)	1280 × 960	SSF	SF	SN	SB
		1024 × 768				
小さいプリントやホームページ用		640 × 480				

RAW

ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない未加工のデータです。パソコンで画像として表示するには、OLYMPUS Masterを使います。他のカメラで再生したり、一般のソフトウェアでの表示、プリント予約はできません。
このカメラで画質モードをRAWデータに設定して撮影した画像を編集することができます。☞「画像編集」（P.93）

画質モードの設定方法

JPEG

JPEGは3種類の画像サイズ（L、M、S）と4種類の圧縮率（SF、F、N、B）を組み合わせた12通りの設定から4通りを登録して使います。☞「画質設定」（P.109）
画像サイズM、Sは、さらにピクセルサイズを変えることができます。
☞「ピクセルサイズ」（P.109）

RAW+JPEG

1回の撮影でJPEGとRAWの2種類の画像を同時に記録します。

RAW

RAW形式で画像を記録します。

例）LF／LN／MN／SNを登録した場合に使用できる9つの画質モード
RAW　　　　：RAW
JPEG　　　 ：LF／LN／MN／SN
RAW+JPEG：RAW+LF／RAW+LN／RAW+MN／RAW+SN

スーパーコンパネ　OK ▶ ◎：[画質モード]

メニュー　MENU ▶ [📷1] ▶ [画質モード]

こんなときは

画質モードをすばやく設定したい：
→ Fnボタンに[RAW◀:]を設定すると、Fnボタンを押しながらダイヤルを回して画質モードを切り換えられるようになります。
Fnボタンを押すたびにRAWデータを同時に記録するかどうかを切り換えられます。☞「Fnボタン機能」（P.102）

各画質モードでのファイル容量、撮影枚数が知りたい：
→「画質モードとファイル容量、撮影可能枚数」（☞P.153）

ホワイトバランスの選択

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているときと、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。デジタルカメラでは、デジタル演算処理により白が白らしくなるように調節します。これをホワイトバランスといいます。ホワイトバランスには、4つの設定があります。

オートホワイトバランス [オート]
自動的に画像の白い部分を判断して全体の色のバランスを調節します。通常はこのモードをお使いください。

プリセットホワイトバランス [ ][ ][ ][ ][1][2][3][WB]
天気、電球・蛍光灯、フラッシュ別に8種類の色温度がプリセットされています。夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。

カスタムホワイトバランス [CWB]
2000K～14000Kの範囲で色温度を設定して使用します。色温度については「ホワイトバランス色温度」（P.152）をご覧ください。
「オート／プリセット／カスタムホワイトバランスの設定」（P.70）

ワンタッチホワイトバランス [1][2][3][4]
カメラを白紙などの白い物に向けて、ホワイトバランスを設定します。設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。4種類のワンタッチホワイトバランスが登録できます。
「ワンタッチホワイトバランスの設定」（P.72）

WBモード	適した撮影シーン
オート	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）。通常はこのモードをお使いください。
5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
1 4000K	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
2 4500K	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
3 6600K	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
WB 5500K	フラッシュ撮影のとき
1～4	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度。 「ワンタッチホワイトバランスの設定」（P.72）
CWB	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。2000K～14000Kの範囲で設定できます。未設定時は5400Kに設定されています。

オート／プリセット／カスタムホワイトバランスの設定　WB

ホワイトバランスを光源の色温度で選択します。

ダイレクトボタン　WB +

スーパーコンパネ　OK ▶ ：[ホワイトバランス]

• カスタムホワイトバランスは[CWB]を選び、ボタンを押しながらダイヤルを回して設定します。

メニュー　MENU ▶ [] ▶ [WBモード]

ボタン
WBボタン
MENU
ボタン
OKボタン

設定中の表示

ファインダ

WBモード　色温度

• カスタムホワイトバランスのときは色温度が表示されます。

コントロールパネル

-A- : AWB
-dL- :
-SH- :
-cL- :
-LA- :
--1 : --1
--2 : --2
--3 : --3
-FL- :
0-1 : 0-1
0-2 : 0-2
0-3 : 0-3
0-4 : 0-4
5400 : K 5400

こんなときは

白くないものが白くなった：

→オートホワイトバランスでは、画面に白に近い色がまったくない場合は、正しいホワイトバランスが測定されないことがあります。プリセットホワイトバランスかワンタッチホワイトバランスを試してください。

光源センサー

このカメラは、撮影する環境の光源を判定するために、光源センサーを備えています。赤外光と可視光を測光・演算し、太陽光・蛍光灯・フラッドランプ・ブルーフラットランプなどの判定をします。撮影時には、センサー部を手で覆ったり、陰にならないように注意してください。

WB補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

ダイレクトボタン **WB + ▶ ：A方向の補正／：G方向の補正**

• サブダイヤルでA方向、メインダイヤルでG方向の設定をします。

スーパーコンパネ ▶：**[WB補正]**

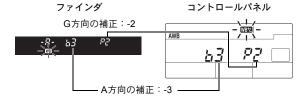
メニュー **MENU ▶ [] ▶ [WBモード]**

• 補正したいホワイトバランスを選択し、を押します。

A方向（赤-青）で補正する場合
現在のホワイトバランスの値に対し、+方向で赤味がかり、–方向で青味がかった画像になります。

G方向（緑-赤紫）で補正する場合
現在のホワイトバランスの値に対し、+方向で緑の色味が増し、–方向で赤紫がかった画像になります。
• それぞれ7段階の補正が可能です。

ダイレクトボタンでの設定画面

設定中の表示
例）A方向、G方向それぞれで–方向の補正をしている場合

こんなときは

補正したホワイトバランスを確認したい：
→補正値を設定した後、試し撮りをするために被写体にカメラを向けます。**AEL/AFL**ボタンを押すと、設定したホワイトバランスの条件で撮影したサンプル画像が表示されます。

すべてのホワイトバランスモードを一括して補正したい：
→「全WBモード補正」（P.108）をご覧ください。

ワンタッチホワイトバランスの設定

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白い紙などにカメラを向けてホワイトバランスを測定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスを4種類までカメラに記憶させることができます。自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた被写体の撮影などに有効です。
あらかじめ**[Fnボタン機能]**を**[ワンタッチWB]**に設定しておきます。（☞P.102）

1 カメラを白い紙に向けます。

- 紙はファインダいっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

2 Fn ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

- ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。

3 登録するワンタッチホワイトバランスの番号を選択して、OKボタンを押します。

- ホワイトバランスが登録されます。
- 登録されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスのひとつとして、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

こんなときは

シャッターボタンを押したら、[不適切なデータです 撮り直してください]と表示された：

→ 白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、ホワイトバランスは登録できません。絞り、シャッター速度などの撮影条件を変えて、再度、手順1からやりなおしてください。

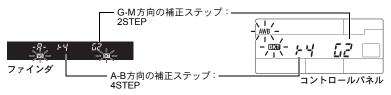
WBブラケット撮影

1回の撮影から、1つの補正方向に対して色合い（ホワイトバランス）を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カードには、カメラの設定で撮影された画像と、その画像から色合いを変更した画像が記録されます。

ダイレクトボタン　**WB + MODE ▶ ：A-B方向の補正ステップ／ ：G-M方向の補正ステップ**

- サブダイヤルでA-B方向、メインダイヤルでG-M方向の設定をします。

メニュー　**MENU ▶ [2] ▶ [WB BKT]**

設定中の表示

- 補正ステップはA-B（赤-青）方向、G-M（緑-赤紫）方向それぞれ**[OFF]**/**[3F 2STEP]**/**[3F 4STEP]**/**[3F 6STEP]**から選択します。
- 1回の撮影で、1つの補正方向に対して3コマの画像を作成します。

ダイレクトボタンでの設定画面

こんなときは

補正したホワイトバランスを中心にWBブラケット撮影をしたい：

→WB補正をした状態で、WBブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてWBブラケット撮影が行われます。

注意

- WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと、続けて撮影ができません。

仕上がり

画像の色調を、撮影目的に応じて選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。調整したパラメータは各仕上がり項目ごとに記録されます。

[1VIVID] ：色鮮やかに仕上げます。
[2NATURAL] ：自然な色合いに仕上げます。
[3FLAT] ：素材性を重視した仕上がりになります。
[4PORTRAIT] ：肌色をきれいに仕上げます。
[モノトーン] ：モノクロ調に仕上げます。
[カスタム] ：仕上がり項目の１つを選んで各パラメータを設定し、登録します。**[カスタム]**では階調の設定も登録しておくことができます。この設定は、メニューの**[階調]**とは別に設定されます。☞「階調」（P.75）

スーパーコンパネ OK ▸ ：**[仕上がり]**

メニュー **MENU ▸ [1] ▸ [仕上がり]**

各仕上がり項目に合わせて調整できるパラメータが分類されています。
それぞれのパラメータの内容は次の通りです。

[コントラスト] ：明暗の差
[シャープネス] ：鮮鋭さ
[彩度] ：色の鮮やかさ
[フィルター効果] ：フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にします。

- **[N:無し]** ：通常の白黒画像になります。
- **[Ye:黄]** ：自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。
- **[Or:オレンジ]** ：青空らしさ・夕日の輝きが少し強調されます。
- **[R:赤]** ：青空らしさ・紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
- **[G:緑]** ：赤い唇・緑の葉がよりいっそう強調されます。

[調色] ：白黒画像に色味をつけます。

- **[N:無し]** ：通常の白黒画像になります。
- **[S:セピア]** ：セピア
- **[B:青]** ：青味
- **[P:紫]** ：紫味
- **[G:緑]** ：緑味

階調

標準階調以外に3種類の階調を選択できます。

[ハイキー]：明るい被写体に適した階調にします。
[ローキー]：暗い被写体に適した階調にします。
[オート]：画像を細かい領域にわけて部分的に明るさを補正します。黒つぶれ・白とびの起きやすい明暗差の大きい画像に有効です。
[標準]：通常は**[標準]**に設定してください。

ハイキー
ハイライト部の多い被写体に最適です。

ローキー
シャドウ部の多い被写体に最適です。

スーパーコンパネ Ⓞ ▶ ◎：**[階調]**

メニュー **MENU ▶ [📷1] ▶ [階調]**

注意

- **[ハイキー]**、**[ローキー]**、**[オート]**の階調ではコントラスト調整は反映されません。

ノイズリダクション—長秒時の画像ノイズを軽減する

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。遅いシャッター速度では、ノイズリダクションが働いて、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。

OFF

ON

メニュー　**MENU ▸ [ ] ▸ [ノイズリダクション]**

- 撮影後にノイズを取り除く動作をします。
- 処理中は、カードアクセスランプが点滅します。カードアクセスランプが消えるまで、次の撮影はできません。
- 処理中は、ファインダ内で busy と表示されます。

ノイズリダクション**[ON]**

注意

- 連写設定時は、**[ノイズリダクション]**は自動的に**[OFF]**になります。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

ノイズフィルタ—高感度時のノイズを軽減する

ノイズの処理レベルを選択できます。通常は**[標準]**に設定し、高感度撮影では**[強]**に設定することをおすすめします。

メニュー　**MENU ▸ [ ] ▸ [ノイズフィルタ]**

フラッシュモードの設定

発光パターンや発光タイミングなど、目的に合わせたフラッシュモードを設定します。設定可能なフラッシュモードは、露出モードによって異なります。フラッシュモードは専用フラッシュ（別売）にも適応します。

オート発光 AUTO

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFターゲットを合わせて撮影してください。

フラッシュ同調速度・低速制限
内蔵フラッシュ発光時のシャッター速度を変更することができます。☞「⚡同調速度」（P.107）、「⚡低速制限」（P.107）

赤目軽減発光 👁／👁⚡

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、赤目軽減発光に設定すると本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。**S**/**M**/**B** モードでは強制発光になります。

目が赤く写ります

注意
- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合や個人差などにより、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

スローシンクロ（先幕シンクロ）⚡SLOW

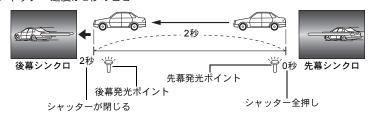
遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると、被写体と背景の両方を写し込むことができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕シンクロについて

フラッシュは、通常はシャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行われます。

スローシンクロ（後幕シンクロ）SLOW2／2nd CURTAIN

シャッターが閉じる直前にフラッシュを光らせるモードです。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。**S**/**M**/**B** モードでは強制発光になります。

シャッター速度が2秒のとき

スローシンクロ（先幕シンクロ）+ 赤目軽減発光 SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

強制発光

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

注意

- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/250秒より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、強制発光すると背景が露出オーバーになることがあります。このような場合は、専用フラッシュ FL-50Rなどを使用して、スーパー FP発光モードで撮影してください。☞「スーパー FP発光」（P.83）

発光禁止

フラッシュは発光しません。
発光禁止でも、内蔵フラッシュをポップアップすればAFイルミネータとして使うことができます。☞「AFイルミネータ」（P.98）

マニュアル発光

内蔵フラッシュを固定した発光量で発光させることができます。フラッシュをマニュアル発光させるときは、被写体までの距離に基づいてレンズのF値を合わせて撮影してください。

発光比	GN：ガイドナンバー (ISO 100相当)
FULL（1/1）	13
1/4	6.5
1/16	3.3
1/64	1.6

レンズのF値は以下の式で計算してください。

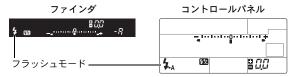
$$\text{絞り（F値）} = \frac{\text{GN} \times \text{ISO感度係数}}{\text{撮影距離（m）}}$$

ISO感度係数

ISO感度	100	200	400	800	1600	3200
ISO感度係数	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0	5.6

ダイレクトボタン ⚡ + ダイヤル

スーパーコンパネ OK ▶ ：[フラッシュ]

設定中の表示

- 各設定値の表示については、「撮影モード別使用可能なフラッシュモード」（☞P.151）をご覧ください。

内蔵フラッシュ撮影

1 ⚡UP ボタンを押して内蔵フラッシュを起こします。

2 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光するときは、⚡（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

ファインダ

3 シャッターボタンを全押しします。

こんなときは

フラッシュの充電完了を待たずに撮影したい：

→「レリーズ優先S、レリーズ優先C」（☞P.104）をご覧ください。

注意

- 撮影する距離や使用するレンズによってフラッシュの光がけられる場合があります。☞「交換レンズによる内蔵フラッシュのけられ」（P.150）

フラッシュ発光量補正

フラッシュの発光量を+3～-3の範囲で調整します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗の差）を意図的につけたいときにも有効です。

ダイレクトボタン	+
スーパーコンパネ	▶ ：**[フラッシュ補正]**
メニュー	**MENU** ▶ **[ ]** ▶ **[フラッシュ補正]**

設定中の表示

ファインダ

こんなときは

ダイヤル操作のみでフラッシュ補正したい：

→メインダイヤルまたはサブダイヤルにフラッシュ補正機能を割り当てることができます。「ダイヤル」（P.100）

注意

- マニュアル発光のときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで発光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。
- **[+ 連動]**が**[ON]**に設定されているときは、露出補正量に加算されます。
  「 + 連動」（P.107）

6

フラッシュ撮影

フラッシュブラケット撮影

1コマごとにフラッシュの発光量を変えて撮影します。3コマの画像が適正発光量、–発光、+発光の順に撮影されます。

メニュー MENU ▸ [📷2] ▸ [FL BKT]

- 露出ステップにより補正量が変わります。☞「露出ステップ」（P.106）
- 単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、発光量を変えて撮影します。
- 連写モードでは、設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。
- シャッターボタンから指を離すと、ブラケット撮影が一時中断されます。一時中断したときはファインダとコントロールパネルに BKT が点滅し、スーパーコンパネに BKT が緑で表示されます。

専用フラッシュ撮影

このカメラでは、内蔵フラッシュの他に別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。
カメラとの通信機能があり、TTL-AUTO、スーパー FP発光など多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。また、ブラケットケーブル（別売）を使用して専用のフラッシュブラケットに取り付けることもできます。
専用フラッシュの取扱説明書も合わせてご覧ください。

専用フラッシュの機能比較

専用フラッシュ	FL-50R	FL-50	FL-36R	FL-36	FL-20	RF-11	TF-22
調光モード	TTL-AUTO, AUTO, MANUAL, FP TTL AUTO, FP MANUAL				TTL-AUTO, AUTO, MANUAL	TTL-AUTO, MANUAL	
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85 mm*時）GN28（24 mm*時）		GN36（85 mm*時）GN20（24 mm*時）		GN20（35 mm*時）	GN11	GN22
RCモード	✓	—	✓	—	—	—	—

* カバーできるレンズ焦点距離（35 mmフィルムカメラ換算）

注意
- エレクトロニックフラッシュ FL-40は使用できません。

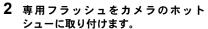
6 フラッシュ撮影

専用フラッシュを使った撮影

フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

1 ホットシューカバーを図の矢印の向きにスライドさせて外します。

- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用フラッシュを取り外した後は再度はめ込んでください。

2 専用フラッシュをカメラのホットシューに取り付けます。

- フラッシュのロックピンが出ている場合は、フラッシュのロックリングを回して、あらかじめ引込めておいてください。

3 フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュの充電ランプが点灯したら充電完了です。
- フラッシュの同調速度は 1/250 秒以下です。

4 フラッシュモードを選択します。

5 フラッシュの調光モードを選択します。

- 通常は TTL-AUTO の使用をおすすめします。

6 シャッターボタンを半押しします。

- カメラ・フラッシュ間で、ISO感度・絞り・シャッター速度などの撮影情報の通信が行われます。

7 シャッターボタンを全押しします。

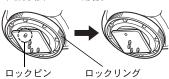
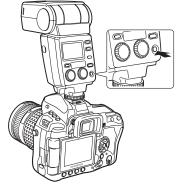
注意

- 外部フラッシュをホットシューに取り付けているときは、内蔵フラッシュは同時には使えません。

スーパー FP発光

専用フラッシュ FL-50RやFL-36Rではスーパー FP発光が可能です。通常発光が使用できない高速のシャッター速度で、フラッシュが使用できます。
屋外のポートレート撮影など開放絞りで日中シンクロ撮影が行えます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

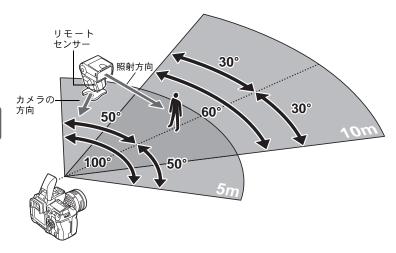
スーパー FP発光

FP

ファインダ

オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムによる撮影

オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムに対応しているフラッシュを使用すると、ワイヤレスでフラッシュ撮影ができます。このシステムに対応した複数のフラッシュを使った多灯フラッシュ撮影も可能で、フラッシュを3グループ（A、B、C）に分けて調光することができます。カメラとフラッシュの通信にはカメラの内蔵フラッシュを使用します。
ワイヤレスフラッシュの操作については、専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

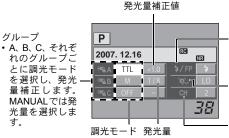
ワイヤレスフラッシュ設置範囲

ワイヤレスフラッシュのリモートセンサーをカメラ側に向けて設置します。設置範囲の目安は以下の通りです。範囲は周辺環境により変わります。

1 「ワイヤレスフラッシュ設置範囲」を参考にフラッシュを配置し、フラッシュの電源を入れます。

2 フラッシュのMODEボタンを押してRCモードに設定し、フラッシュのチャンネルとグループを設定します。

3 カメラのRCモードを[ON]に設定します。

- **MENU** ▸ [2] ▸ [RCモード] ▸ [ON]
- スーパーコンパネがRCモードに切り換わります。
- **INFO**ボタンを繰り返し押すと、スーパーコンパネの表示が切り換わります。

4 スーパーコンパネでグループごとに調光モードなどの設定をします。

5 フラッシュモードを選択します。

• RCモードでは赤目軽減発光はできません。

6 ⚡UPボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップします。

7 撮影準備が終わったら、必ずテスト撮影をしてフラッシュの作動や画像の確認を行ってください。

8 カメラとフラッシュの充電完了表示を確認してから撮影します。

注意

• ワイヤレスフラッシュの設置数に制限はありませんが、相互干渉による誤動作を防止するため、1グループ最大3台での使用をおすすめします。
• RCモードでは、内蔵フラッシュはワイヤレスフラッシュとの通信に使用されます。撮影時のフラッシュとしては使用できません。
• ワイヤレスフラッシュで後幕シンクロ撮影をする場合は、シャッター速度が4秒以内になるように設定してください。また低振動モードの設定も4秒以内にしてください。それを超えると、正常な撮影ができません。

6

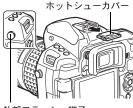
フラッシュ撮影

市販のフラッシュを使った撮影

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュは、カメラ側から発光量を調整することはできません。ホットシューに接続するか、シンクロコードを外部フラッシュ端子に接続して使用します。カメラの撮影モードを**M**にします。使用できる市販のフラッシュの詳細については「使用できる市販のフラッシュ」（☞P.86）をご覧ください。

1 ホットシューカバーを取り外し、フラッシュをカメラに接続します。

2 撮影モードをMにし、絞り値とシャッター速度を設定します。

- シャッター速度は 1/250 秒より低速に設定してください。これより早いシャッター速度ではフラッシュは同調しません。
- シャッター速度を遅く設定すると、画像がぶれる可能性があります。

3 フラッシュの電源を入れます。

- 電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 フラッシュ側の調光の設定に適したISO感度と絞り値にします。

- フラッシュ側の調光モードの設定方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意

- フラッシュは常に発光します。フラッシュを光らせたくないときは、フラッシュの電源を切ってください。
- ご使用になるフラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認ください。

使用できる市販のフラッシュ

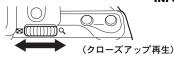
1) 市販のフラッシュには、シンクロ端子に250V以上の電圧がかかるものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、カメラを故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせください。
2) 市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談ください。
3) フラッシュ使用時の露出は、フラッシュ側で調整する必要があります。フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
4) フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合はフラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。
5) レンズの焦点距離に合った照射角のフラッシュをお使いください。レンズの焦点距離に約2倍した数字が35 mmフィルム用レンズの焦点距離になります。
6) 専用フラッシュ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。

1コマ再生／クローズアップ再生

画像を見るための基本的な手順は、以下の通りです。
撮影した画像を見たり、編集する方法はいろいろありますが、どの方法も以下の手順1の操作を行って、各再生機能を操作します。撮影後、自動的に1コマ再生モードにすることもできます。☞「撮影確認」（P.112）

1 ボタンを押します（1コマ再生）。

- 最後に撮影された画像が表示されます。
- 1分以上何も操作しないと、カメラは液晶モニタを消灯して動作を停止します。その後何も操作しないと4時間後（初期設定）に、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れなおしてください。

2 で表示したい画像を選択します。ダイヤルを 側に回して、クローズアップ再生することができます。

（1コマ再生）

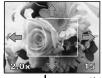
：10コマ前の画像を表示
：10コマ先の画像を表示
：次の画像を表示
：1コマ前の画像を表示

Fnボタンを押す
- 10 倍にクローズアップ位置再生されます。

（クローズアップ再生）

を押して、クローズアップ位置を変更できます。

INFOボタンを押す

（クローズアップ位置再生）

を押して、クローズアップ位置の表示を移動できます。

INFOボタンを押す

（クローズアップコマ送り再生）

を押して、クローズアップのままコマ送りできます。
- INFOボタンを押すとクローズアップ再生に戻ります。

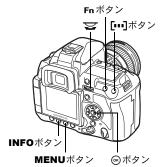
- 再生を終了するときは、再度、ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影に戻ります。

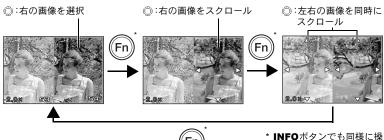
ライトボックス表示

再生中の画像と他の画像を左右に表示して見ることができます。ブラケット撮影などの画像の比較に便利です。

1 再生中に[▪▪▪]ボタンを押します。
- 表示中のコマが画面の左半分に、次のコマが右半分に表示されます。再生中の拡大倍率で表示されます。
- 左の画像が基準画像となります。

2 十字ボタンで右の画像を選択します。
- 右の画像のプロテクト・消去・コピーができます。

3 [▪▪▪]ボタンを押します。
- 左の画像が再生中の拡大倍率で1コマの再生に戻ります。

基準画像

ライトボックス表示中の操作
- OKボタンを押すと、左の画像が右の画像に置き換わり、基準画像になります。
- ダイヤル操作で左右の画像の倍率を同時に変えられます。
- Fnボタンまたは**INFO**ボタンを押すと、十字ボタンで右の画像の表示位置を移動できます。再度Fnボタンまたは**INFO**ボタンを押すと、十字ボタンで左右の画像の表示位置を同時に移動できます。

* **INFO**ボタンでも同様に操作できます。

7 再生

インデックス再生／カレンダー再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。

1コマ再生中に、ダイヤルを[インデックス]側に回すたびにコマ数が4、9、16、25コマと変化します。

[◁]：前のコマへ移動
[▷]：次のコマへ移動
[△]：上のコマへ移動
[▽]：下のコマへ移動

• 1コマ再生に戻るにはダイヤルを[Q]側に回します。

カレンダー再生について

カードに保存されている画像を、カレンダー上の日付で指定して表示することができます。同じ日付に複数の画像がある場合は、その日最初に撮影された画像が表示されます。
[十字ボタン]で日付を選択し[OK]ボタンを押すと、選択した日付の画像が1コマ再生されます。

7
再生

情報表示 INFO

画像の詳細情報を表示することができます。
また、画像の輝度情報を、ヒストグラムやハイライト表示で図示することもできます。

選択したい情報が表示されるまで、INFOボタンを繰り返し押します。

- この設定は記憶され、次回表示する際も同じ情報が表示がされます。

画像のみ

情報表示1

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・ファイル番号を表示

情報表示2

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・画像サイズ・圧縮率・日時・ファイル番号を表示

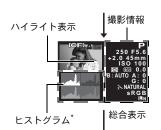
***ヒストグラムの活用**

ヒストグラムの右端付近が著しく突出した場合は、白トビの可能性があり、左端付近が著しく突出した場合は、黒つぶれの可能性があります。露出を補正するか、再度撮影してください。

撮影情報

ハイライト表示

ヒストグラム*

総合表示

シャドウ表示

撮影した画像の露出アンダーな部分（シャドウ）を点滅して表示

ハイライト表示

撮影した画像の露出オーバーな部分（ハイライト）を点滅して表示

ヒストグラム表示

撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示

自動再生（スライドショー）

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。表示している画像から、順に約5秒間ずつ表示されます。インデックス表示で自動再生することができます。同時に表示できるコマ数は1、4、9、16、25コマから選択できます。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [自動再生]**

2 **で設定します。**

[1]（1コマ表示）/**[4]**（4コマ表示）/**[9]**（9コマ表示）/**[16]**（16コマ表示）/**[25]**（25コマ表示）

3 **ボタンを押すと自動再生がスタートします。**

4 **ボタンを押すと停止します。**

[4]を選択したとき

注意

- 電池を使用している場合、自動再生を 30 分続けると、カメラの電源が自動的に切れます。

回転再生

1コマ再生中に、撮影した画像を回転して縦位置表示することができます。縦位置で撮影したときなどに便利です。カメラを回転させても、自動的に正しい方向で画像を見ることができます。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [回転再生]**

- **[ON]** に設定すると、縦位置で撮影した画像を再生したときに自動的に回転して表示します。また、ボタンを押して画像を回転して表示することもできます。
- 回転表示した画像は、その状態でカードに記録されます。

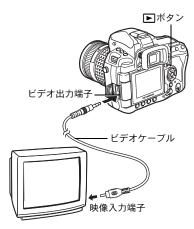
回転する前の画像

テレビ再生

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。

1 **カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルを図のように接続します。**

2 **テレビの電源を入れ、ビデオ入力に設定します。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。**

3 **カメラの電源を入れ、▶（再生）ボタンを押します。**

注意

- テレビとカメラを接続する場合は必ず付属のビデオケーブルを使用してください。
- カメラのビデオ信号がお使いのテレビの映像信号に合っているかどうかを確認してください。☞「ビデオ出力」（P.112）
- ビデオケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- お使いのテレビによっては再生画像が画面中央からずれることがあります。

7

再生

画像編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。画像のデータ形式によって、可能な編集が決定します。
プリント可能なファイルはJPEGです。RAWファイルは、そのままではプリントできません。プリントする場合はRAW編集機能を使ってJPEGファイルにします。

RAWデータ形式で記録した画像の編集
RAWデータ形式の画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、JPEGの画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。
この操作を行う時点のカメラの設定で、画像が処理されます。目的に合わせてあらかじめカメラの設定を変更しておきます。

JPEG形式で記録した画像の編集

[リサイズ] 画像サイズを1280 × 960、640 × 480、または320 × 240に変換します。
[階調オート] 逆光時に暗く写った被写体を明るくします。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [編集]

2 ◁▷で画像を選択し、OKボタンを押します。
- 画像のデータ形式をカメラが認識します。
- RAW+JPEGで記録した画像は、どちらのデータを編集するかを選択する画面が表示されます。

3 画像のデータ形式によって、表示される画面が変わります。編集項目を選択し、各手順を行ってください。

データ形式をここで確認します。

- 編集した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。
- 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

注意
- 次の場合はJPEG編集できません。
  RAWで記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像
- **[リサイズ]**では、撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。

7 再生

画像のコピー　COPY

xD-ピクチャーカードとコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブ間で画像をコピーします。両方にカードが入っていないと、このメニューは選択できません。選択されているカードがコピー元になります。
☞「記録カード選択」（P.111）

1コマコピー

1　コピーしたい画像を表示して、COPY/⎙ボタンを押します。

2　△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

選択コマコピー

1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度にコピーすることができます。

1　コピーしたい画像を表示して、OKボタンを押します。
- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度OKボタンを押します。

2　十字ボタンを押してコピーしたい次の画像を表示して、OKボタンを押します。

3　コピーする画像を選択し終えたら、COPY/⎙ボタンを押します。

4　△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

全コマコピー

1　MENU ▸ [▶] ▸ [全コマコピー]

2　▷を押します。

3　△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

画像のプロテクト

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1コマプロテクト

プロテクトをかけたい画像を再生して、O‑nボタンを押します。

• 画面右上に[O‑n]（プロテクトマーク）が表示されます。

プロテクトを解除するには

プロテクトされている画像を再生しO‑nボタンを押します。

選択コマプロテクト

1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度にプロテクトをかけることができます。

1 プロテクトをかけたい画像を表示して、OKボタンを押します。

• 画像が選択され赤枠で表示されます。
• 選択を取り消すには、再度OKボタンを押します。
• インデックス再生時は、十字ボタンを押してプロテクトしたい画像を選択して、OKボタンを押します。

2 十字ボタンを押してプロテクトしたい次の画像を表示して、OKボタンを押します。

3 プロテクトする画像を選択し終えたら、O‑nボタンを押します。

全プロテクト解除

複数のプロテクトされている画像を一度に解除できます。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [全プロテクト解除]

2 △▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

注意

• カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像でも消去されます。
☞「カードを初期化する」（P.142）
• プロテクトされた画像は、回転ボタンを押しても回転再生できません。

7 再生

画像の消去

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去および選択したコマを消去する選択コマ消去があります。

注意

- RAW+JPEGで記録した画像は、全コマ消去、選択コマ消去では、RAW・JPEG両方の画像が同時に消去されます。1コマ消去では、消去される画像をJPEGのみ、RAWのみ、RAW・JPEG両方から選べます。☞「RAW+JPEG 消去」(P.109)
- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像のプロテクト」(P.95)

1コマ消去

1 消去したい画像を表示して、消去ボタンを押します。

2 △▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

選択コマ消去

1コマ再生またはインデックス再生で、画像を複数選択して一度に消去することができます。

1 消去したい画像を表示して、OKボタンを押します。

- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度OKボタンを押します。
- インデックス再生時は、十字ボタンを押して消去したい画像を選択して、OKボタンを押します。

2 十字ボタンを押して消去したい次の画像を表示して、OKボタンを押します。

3 **消去する画像を選択し終えたら、🗑ボタンを押します。**

4 **△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。**

全コマ消去

1 **MENU ▸ [▶1] ▸ [カードセットアップ]**

2 **△▽で[全コマ消去]を選択し、OKボタンを押します。**

3 **△▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。**
- 全コマ消去が実行されます。

こんなときは

画像をすぐに消去したい：

→「ワンプッシュ消去」（☞P.109）を設定すると、🗑ボタンを押すとすぐに画像を消去できます。

→初期設定のカーソルの位置を**[実行]**に設定することができます。☞「実行優先設定」（P.110）

7 再生

8 カスタム機能の設定

カスタムメニューでは、カメラを使いやすくするための設定をします。カスタムメニューには、撮影機能をカスタマイズするカスタムメニュー1と、カメラの基本的な機能を設定するカスタムメニュー2があります。
カスタムメニュー1には、さらにA～Iの9つのタブがあり、設定する機能によって分類されています。

△▽で[1]を選択し、▷を押します。

△▽でタブA～Iを選択し、▷を押します。

△▽で機能を選択し、▷を押します。

メニューの操作方法は「メニューの操作」（☞P.30）ご覧ください。

カスタムメニュー1 ▶ A AF/MF

AFイルミネータ

内蔵フラッシュはAFイルミネータとして機能させることができ、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピントが合います。この機能を使うにはフラッシュを起こしておきます。

フォーカスリング

フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り換えることができます。

AFロックオン

[ON] に設定すると、C-AFでピント合わせの動作中に被写体との距離が急に変化しても、すぐにピントを追いかけません。被写体の前後を横切るものの多い撮影場所で効果的です。

AFターゲット表示

[OFF] に設定すると、ピントが合ったときにファインダ内でAFターゲットマークを点灯しないようにすることができます。

AFターゲットサイズ

[AFターゲット選択]で**[・]**を選択しているとき、ピントを合わせるAFターゲットの範囲を設定します。

[標準] 選択した AF ターゲット枠とその周辺も含めた範囲でピントを合わせます。

[小] 選択したAFターゲット枠内だけでピントを合わせます。**[小]**に設定しているときは、**[AFターゲット選択]**の選択肢の表示が**[・]s**になります。

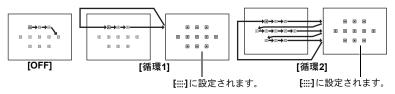
[▪▪▪]循環選択

AFターゲット選択時のダイヤルおよび十字ボタンの動作を選択します。

[OFF] 一番端のAFターゲットまで移動したところで止まります。

[循環1] 一番端のAFターゲットまで移動した後、同じ行または同じ列の反対側の端のAFターゲットに移動します。反対側のAFターゲットに移動する前に、すべてのAFターゲットが選択され、**[AFターゲット選択]**が**[::::]**に設定されます。

[循環2] 一番端のAFターゲットまで移動した後、次の行または次の列の反対側の端のAFターゲットに移動します。反対側のAFターゲットに移動する前に、すべてのAFターゲットが選択され、**[AFターゲット選択]**が**[::::]**に設定されます。

例）左上のAFターゲットから右方向に移動する場合

レンズリセット

[ON]に設定すると、カメラの電源を切ったときに、レンズのフォーカス位置をリセット（無限遠）します。

BULB中MF

MFでバルブ撮影しているときのピント調整について設定します。

[ON] 露光中もフォーカスリングを回してピントを変えることができます。

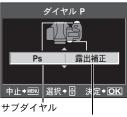
[OFF] 露光中はピントが固定されます。

ダイヤル

P、**A**、**S**、**M** モードのとき、出荷時とは異なる機能をメインダイヤルとサブダイヤルそれぞれに割り当てることができます。また、メニュー操作時のメインダイヤルとサブダイヤルの動作を出荷時とは逆に設定できます。

- **P**　：**[Ps]**/**[露出補正]**/**[フラッシュ補正]**
- **A**　：**[絞り]**/**[露出補正]**/**[フラッシュ補正]**
- **S**　：**[シャッター速度]**/**[露出補正]**/**[フラッシュ補正]**
- **M**　：**[シャッター速度]**/**[絞り]**
- **MENU**　：**[◀▶]**/**[▲▼/ VALUE]**

- **[MENU]** の **[◀▶]** は、ダイヤル操作が横方向（◁▷）の動作をすることを意味しています。**[▲▼/ VALUE]** は、ダイヤル操作が縦方向（△▽）の動作をすることを意味しています。

AEL/AFLモード

シャッターボタンでオートフォーカス動作や測光を行う代わりに、**AEL/AFL**ボタンを押してオートフォーカス動作や測光を行うことができます。
シャッターボタンを押したときの動作と組み合わせてボタンの機能を選択できます。それぞれのフォーカスモードで**[mode1]**～**[mode4]**を選択します（**[mode4]**はC-AFモードのときのみ選択できます）。

モード	シャッターボタンの役割				AEL/AFLボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
[S-AF]						
mode1	S-AF動作	固定	—	—	—	固定
mode2	S-AF動作	—	—	固定	—	固定
mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—
[C-AF]						
mode1	C-AF開始	固定	固定	—	—	固定
mode2	C-AF開始	—	固定	固定	—	固定
mode3	—	固定	固定	—	C-AF開始	—
mode4	—	—	固定	固定	C-AF開始	—
[MF]						
mode1	—	固定	—	—	—	固定
mode2	—	—	—	固定	—	固定
mode3	—	固定	—	—	S-AF動作	—

各モードでの基本の使い方

[mode1] ピント合わせと同時に測光して露出を決めて撮影します。**AEL/AFL**ボタンを押している間はAEロックされるので、ピント合わせと露出を別々に決めることもできます。

[mode2] シャッターボタンを全押ししたときに露出を決めて撮影します。舞台など撮影時の照明状態が大きく変わるシーンの撮影に適しています。

[mode3] シャッターボタンではなく、**AEL/AFL**ボタンを使ってピント合わせを行いたいときに使います。

[mode4] **AEL/AFL**ボタンでピント合わせの動作を行い、シャッターボタンを全押ししたときに露出を決めて撮影します。

AEL/AFL MEMO

AEL/AFLボタンを押すと露出の固定と保持ができます。

[ON] **AEL/AFL**ボタンを押すと露出を固定して保持します。もう一度押すと保持を解除します。

[OFF] **AEL/AFL**ボタンを押している間だけ露出を固定します。

Fnボタン機能

Fnボタンに機能を登録することができます。

[プレビュー]/[ライブプレビュー]（電子式）

Fnボタンを押している間、設定された絞り値まで絞り込みます。
☞「プレビュー機能」（P.48）

[ワンタッチWB]

Fnボタンを押して、ホワイトバランスの値を取得します。
☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」（P.72）

[[···]HOME]

Fnボタンを押すと、登録したAFホームポジションに切り換わります。再度押すと元のAFターゲットモードに戻ります。
☞「AFターゲットモードを登録する」（P.60）

[MF切換]

Fnボタンを押すと、AF方式が**[MF]**に切り換わります。再度押すと、元のAF方式に戻ります。

[RAW◀:·]

Fnボタンを押すと、JPEG撮影時はRAW+JPEGの画質モードに、RAW+JPEG撮影時はJPEGのみの画質モードに切り換わります。
Fnボタンを押しながらメインダイヤル／サブダイヤルを回すと、画質モードを変更できます。

[P/A/S/M]

Fnボタンを押しながらメインダイヤル／サブダイヤルを回すと、撮影モードを変更できます。

[試し撮り撮影]

Fnボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、画像をカードに記録することなく液晶モニタで画像の確認ができます。すばやく設定値の効果を確認するのに便利です。

[マイモード撮影]

Fnボタンを押している間、**[マイモード設定]**で登録した設定内容で撮影することができます。☞「マイモード設定」（P.103）

[水中ワイド/水中マクロ]

Fnボタンを押すと撮影モードが水中ワイドに切り換わり、押すたびに水中ワイドと水中マクロが切り換わります。また、**MODE**ボタンを押しながらメインダイヤルを回して撮影モードを水中ワイド、水中マクロに設定することができます。☞「水中ワイド／水中マクロ撮影」（P.48）

[OFF]

機能は割り当てられていません。

マイモード設定

よく使う設定状態をマイモードとして2つ記憶させておくことができます。登録したマイモードを使って撮影するには、以下の2通りの方法があります。

- **MODE**ボタンを使って設定する。☞「マイモード撮影」(P.47)
- **Fn**ボタンに**[マイモード設定]**を割り当てる。☞「Fnボタン機能」(P.102)
  Fnボタンでマイモード撮影する場合は、以下の「実行する」の操作をして、使用するマイモードをあらかじめ設定しておきます。

登録する

1) **[マイモード1]**または**[マイモード2]**を選択し、▷を押します。
2) **[登録]**を選択し、Ⓞボタンを押します。
   - 現在の設定がカメラに登録されます。マイモードに登録できる機能は「マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能」(☞P.154)をご覧ください。
   - 登録を解除するには**[クリア]**を選択します。

実行する

1) **[マイモード1]**または**[マイモード2]**を選択し、Ⓞボタンを押します。
2) **[実行]**を選択し、Ⓞボタンを押します。
   - 使用するマイモードに設定されます。
   - 撮影するときは**Fn**ボタンを押しながらシャッターボタンを押します。

ボタンON保持時間

ダイレクトボタンから指を離しても、押した状態を保持します。

[OFF]	ボタンを押している間のみ有効です。
[3秒]/[5秒]/[8秒]	それぞれの秒数の間、押した状態を保持します。
[HOLD]	もう一度ボタンを押すまで、押した状態を保持します。

- **[ボタンON保持時間]**で対象となるボタン
  ISO、±、**WB**、⚡、⚡±、**MODE**、測光、**AF**、**BKT**、連写/セルフタイマー/連写

AEL/AFL⇌Fn

AEL/AFLボタンと**Fn**ボタンの機能を切り換えることができます。**[ON]**を選択すると、**AEL/AFL**ボタンが**Fn**ボタンとして、**Fn**ボタンが**AEL/AFL**ボタンとして機能します。

- 別売のパワーバッテリーホルダーを装着しているときは、パワーバッテリーホルダー側の**Fn**ボタンにも設定が反映されます。

8

カスタム機能の設定

カスタムメニュー1 ▶ ic レリーズ／連写

レリーズ優先S、レリーズ優先C

このカメラはAF作動中・フラッシュ充電中はシャッターが切れませんが、次の設定により、これらの完了を待たずに、シャッターを切ることができます。シャッターチャンスを優先する撮影に適しています。AF方式により個別に設定できます。

レリーズ優先S　S-AFモード（☞P.55）のレリーズ優先を設定します。
レリーズ優先C　C-AFモード（☞P.56）のレリーズ優先を設定します。

▭L設定

[▭L]で連続撮影するときの1秒間に撮影する枚数を**[1fps]**～**[4fps]**から設定します。

カスタムメニュー1 ▶ iD 表示／音／接続

ビープ音

シャッターボタンを押してピントが合ったときのピピッという音を鳴らさないようにできます。

スリープ時間

カメラは何も操作しない状態で一定の時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり動作を停止し、電池の消費を抑えます。スーパーコンパネ表示中は一定時間経過後、バックライトが消灯し、さらに一定時間が経過するとスリープモードになります。**[スリープ時間]**では、スリープモードに入るまでの時間を**[1分]**/**[3分]**/**[5分]**/**[10分]**から設定することができます。**[OFF]**に設定すると、スリープモードには入りません。
スリープモードを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

バックライト時間

スーパーコンパネ表示中に一定時間が経過すると、バックライトが消灯して液晶モニタが暗くなり、電池の消費を抑えます。バックライトが消灯するまでの時間を**[8秒]**/**[30秒]**/**[1分]**から設定します。**[HOLD]**に設定するとバックライトは消灯しません。
バックライトを点灯させるにはシャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

自動電源OFF

カメラを使用しないで4時間経過すると、自動的に電源が切れるように設定することができます。**[OFF]**に設定すると電源は切れません。

USB接続モード

USBケーブルを使って、カメラをパソコンやプリンタへ直接接続することができます。あらかじめ何に接続するかを設定しておくと、カメラを接続した際に毎回設定する手間を省くことができます。カメラをこれらの機器に接続した際の使い方は、「カメラをプリンタに接続する」（☞P.117）、「カメラをパソコンに接続する」（☞P.122）をお読みください。

[オート]
カメラを他の機器と接続したときの使い方を毎回設定します。選択画面が毎回表示されます。

[ストレージ]
パソコンに画像を転送するときに使用します。カメラをパソコンと接続してOLYMPUS Masterを使うときにもこれに設定します。

[MTP]
Windows Vistaで、OLYMPUS Masterを使わずに画像を転送するときに設定します。

[カメラコントロール]
OLYMPUS Studio（別売）を使い、パソコン側でカメラをコントロールします。

[凸かんたん]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。パソコンを使わずに直接画像をプリントできます。☞「カメラをプリンタに接続する」（P.117）

[凸カスタム]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。プリント枚数や用紙などを設定してプリントすることができます。☞「カメラをプリンタに接続する」（P.117）

LVブースト

ライブビュー撮影中に、液晶モニタを明るくして被写体を確認しやすくすることができます。

[OFF]

設定した露出に応じた明るさで被写体が液晶モニタに表示されます。撮影結果に近い画像を、あらかじめ液晶モニタで確認しながら撮影できます。

[ON]

被写体を確認しやすいように、カメラが明るさを自動的に調整して液晶モニタに表示します。露出補正の調整結果は液晶モニタには反映されません。

罫線表示

構図を決めるときの目安となる罫線を液晶モニタに表示することができます。
INFOボタンを繰り返し押して、罫線を表示します。☞「情報表示を切り換える」(P.33)

カスタムメニュー 1 ▶ 露出/測光/ISO

露出ステップ

シャッター速度・絞り値・露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを**[1/3EV]**/**[1/2EV]**/**[1EV]**から切り換えます。

ISO感度ステップ

ISO感度の補正ステップを**[1/3EV]**/**[1EV]**から切り換えます。

ISOオート設定

ISO感度をオートに設定しているときの上限値と基準値を設定します。

[上限値]

自動的に変わるISO感度の上限値を100～3200の間で、1/3EVステップで設定します。

[基準値]

適正露出が得られる撮影状況で通常使用する値を100～3200の間で、1/3EVステップで設定します。

ISOオート有効

ISO感度の**[オート]**の設定が有効になる撮影モードを設定します。

[P/A/S]

P/**A**/**S**モードで**[オート]**の設定が有効になります。その他の撮影モードでは、**[オート]**に設定されていると、ISO100になります。

[ALL]

すべての撮影モードで**[オート]**の設定が有効になります。**M**モードでも適正ISOになるようにISO感度が自動的に変わります。

AEL測光モード

AEL/**AFL**ボタンを押して露出を固定するときの測光方式を設定します。

- **[オート]**は**[測光]**で選択されているモードで測光します。

BULBリミッター

バルブ撮影（**B**）の最長時間（分）を設定します。

カスタムメニュー1 ▶ フラッシュ

同調速度

フラッシュ発光時のシャッター速度を1/60～1/250の間で、1/3EVステップで設定できます。

- 市販のフラッシュの同調速度はフラッシュの取扱説明書をご覧ください。

低速制限

フラッシュ発光時のシャッター速度の低速制限を1/30～1/250の間で、1/3EVステップで設定できます。

+連動

[ON]に設定しているときは、露出補正量に加算して、フラッシュ補正が行われます。

全WBモード補正

ホワイトバランスの各モードを一括して同じ値に補正します。

[ALL SET] すべてのWBモードを一括して同じ値に補正します。
[ALL CLEAR] すべてのWB補正値を一括して0にします。

[ALL SET]を選択した場合

1) ◁▷で補正方向を選択します。
A方向：赤-青／G方向：緑-赤紫

2) △▽で補正します。☞「WB補正」（P.71）
AEL/AFLボタンを押すと、サンプル画像が撮影されます。補正したホワイトバランスを確認できます。

[ALL CLEAR]を選択した場合

1) △▽で**[実行]**を選択します。

カラー設定

撮影した画像をモニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。設定したカラー空間は、画像のファイル名に表示されます。
☞「ファイルネーム」（P.110）

Pmdd0000.jpg
P : sRGB
_ : Adobe RGB

[sRGB] Windowsの標準の色空間。
[Adobe RGB] Adobe Photoshopで設定できる色空間。

シェーディング補正

レンズの特性により、画面の周辺が暗くなることがあります。これを補正して、明るくします。特に広角レンズを使用したときに、この機能が効果を発揮します。

注意

- テレコンバーターやエクステンションチューブを装着しているときは、この機能は働きません。
- ISO感度の高い設定で行うと、画面周辺のノイズが目立つことがあります。

画質設定

3種類の画像サイズと4種類の圧縮率を組み合わせて、4通りの画質設定を登録します。登録した画質設定は**[画質モード]**で選択します。☞「画質モードの選択」（P.67）

ピクセルサイズ

画像サイズ**[M]**、**[S]**のピクセルサイズを設定します。

[Middle] **[3200 × 2400]**/**[2560 × 1920]**/**[1600 × 1200]**から選択します。
[Small] **[1280 × 960]**/**[1024 × 768]**/**[640 × 480]**から選択します。

カスタムメニュー 1 ▶ 記録／消去

ワンプッシュ消去

ボタンを押して、すぐに画像を消去するように設定します。

[OFF] ボタンを押すと消去を実行するかどうかを確認する画面が表示されます。
[ON] ボタンを押すとすぐに消去が実行されます。

RAW+JPEG 消去

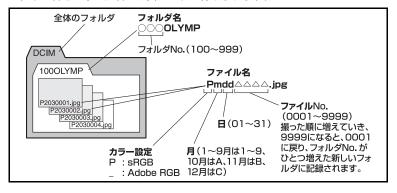
RAW+JPEGで記録した画像の消去方法を設定できます。1コマ消去を行うときのみ有効な機能です。

[JPEG] JPEGの画像を消去してRAWのみ残します。
[RAW] RAWの画像を消去してJPEGのみ残します。
[RAW+JPEG] 同時に両方を消去します。

注意

- この機能は、1コマ消去する場合にのみ有効です。全コマ消去や選択コマ消去の場合は、この設定に関係なくRAW、JPEG両方とも同時に消去されます。

ファイルネーム

撮影した画像は、カードに記録されるときにファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。

[オート]
カードを入れ換えても、ファイルNo.は通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNo.と重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNo.に続いた番号が付けられます。

[リセット]
新しいカードを入れたときは、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNo. に続けて番号が付けられます。

- 最大のフォルダNo. 999、ファイルNo. 9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

実行優先設定

「画像の消去」や「カードの初期化」などの画面で、カーソルの初期位置を**[実行]** **[中止]**のどちらにするかを選択できます。

dpi設定

プリントするときの解像度をあらかじめ設定できます。設定した値が撮影時に画像と共にカードに記憶されます。

[オート]　画像サイズにあわせて自動的に設定されます。
[カスタム]　任意の数値を設定します。Ⓓを押すと設定画面が表示されます。

光源センサの参照

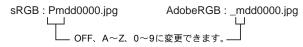
オートホワイトバランスでの光源判定用の光源センサーを使わないこともできます。センサー周辺と被写体の光源が異なる場合に有効です。

カスタムメニュー 2

記録カード選択

コンパクトフラッシュとxD ピクチャーカードを両方挿入しているときに、使用するカードを選択します。

ファイルネーム編集

画像のファイル整理に便利なようにファイルネームの一部を変更できます。
カラー設定により変更できる部分が異なります。☞「カラー設定」（P.108）

モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

[オート]　照度センサーが周囲の明るさを測り、液晶モニタを見やすいように自動的に調整します。

[+7]～[-7]　で調整します。

（言語切り換え）

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを、日本語ではなく他の言語にすることができます。

- OLYMPUS Masterを使って表示する言語を増やすことができます。
  詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをご覧ください。☞「OLYMPUS Masterを使う」（P.121）

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。
海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。設定してからテレビにつないでください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

主な国と地域の映像信号
海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

撮影確認

撮影した画像をカードに記録する間、液晶モニタに表示することができます。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。
撮影確認中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

[1秒]～[20秒] 画像を表示する時間を指定します。1秒刻みで設定することができます。
[OFF] 記録中の画像は表示されません。
[AUTO▶] 記録中の画像を表示し、そのまま再生モードに切り換わります。画像を確認した後、消去したいときに便利です。

バージョン

カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
お問い合わせいただく際やソフトウェアをダウンロードする場合に必要になることがあります。
▷を押します。カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
OKボタンを押すと、前の画面に戻ります。

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させることです。
プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容にしたがってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PCカードアダプタが必要な場合もあります。

注意

- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。また、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- RAWデータはプリントできません。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

9 プリントする

1コマ予約する

操作ガイドにしたがって1枚の画像をプリント予約してみましょう。

1 MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]

操作ガイド

2 [1コマ予約]を選択し、Ⓞボタンを押します。

3 ◁▷ を押してプリント予約したいコマを選択し、▽△を押してプリントする枚数を設定します。

• 複数の画像をプリント予約する場合は、この手順を繰り返します。

4 プリント予約が終わったらⓄボタンを押します。

• 1コマ予約のメニュー画面が表示されます。

5 日時の種類を選択し、Ⓞボタンを押します。

[無し] 画像のみプリントされます。
[日付] 画像と撮影年月日がプリントされます。
[時刻] 画像と撮影時刻がプリントされます。

6 [予約する]を選択し、Ⓞボタンを押します。

全コマ予約する

カード内全画像をプリント予約します。プリント枚数は1枚固定です。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]**
2 **[全コマ予約]を選択し、Ⓞボタンを押します。**
3 **日時の種類を選択し、Ⓞボタンを押します。**

[無し] 画像のみプリントされます。
[日付] 画像と撮影年月日がプリントされます。
[時刻] 画像と撮影時刻がプリントされます。

4 **[予約する]を選択し、Ⓞボタンを押します。**

プリント予約を解除する

すべてのプリント予約を解除する方法と、選択した画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [プリント予約]**

すべての予約を解除する

2 **[1コマ予約]または[全コマ予約]を選択し、Ⓞボタンを押します。**
3 **[解除する]を選択し、Ⓞボタンを押します。**

1コマずつ予約を解除する

2 **[1コマ予約]を選択し、Ⓞボタンを押します。**
3 **[解除しない]を選択し、Ⓞボタンを押します。**
4 **◁▷を押してプリント予約を解除したいコマを選択し、▽でプリント枚数を0に設定します。**
5 **プリント予約の解除が終わったら、Ⓞボタンを押します。**
6 **日時の種類を選択し、Ⓞボタンを押します。**

• プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。

7 **[予約する]を選択し、Ⓞボタンを押します。**

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（☞P.119）で**[標準設定]**を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

- 使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。
- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

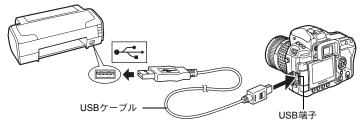
注意

- プリントを始める際は、充電した電池をご使用ください。
- RAWデータで記録された画像は、プリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、カメラに付属のUSBケーブルで、カメラのUSB端子とプリンタのUSBポートを接続します。

- プリンタの電源の入れ方および USB 端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 カメラの電源を入れます。

- 液晶モニタにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 で[かんたんプリント]か[カスタムプリント]を選択します。

[かんたんプリント]を選択した場合

- 「かんたんプリントでプリントする」（P.118）へ進んでください。

[カスタムプリント]を選択した場合

- **[しばらくお待ちください]**と表示された後、カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。
「カスタムプリントでプリントする」（☞P.118）へ進んでください。

注意

- 数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USB ケーブルを抜いて、手順1からやりなおしてください。

かんたんプリントでプリントする

1 **◁▷を押して、プリントする画像をカメラに表示します。**

- プリントしたい画像をカメラに表示してから、USBケーブルでカメラとプリンタを接続すると、すぐに右の画面が表示されます。

2 **(プリント)ボタンを押します。**

- プリントが終わると画像選択の画面が表示されます。別の画像をプリントするときは◁▷を押して画像を選択し、ボタンを押します。
- 終了するときは、画像選択の画面が表示された状態でカメラからUSBケーブルを抜きます。

カスタムプリントでプリントする

1 **操作ガイドにしたがってプリントの各設定をします。**

この部分に表示されるガイドにしたがって操作を進めてください。

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。選択できるプリントモードは、以下の通りです。

[プリント]	選択した画像をプリントします。
[全コマプリント]	カードの中の全画像をプリントします。
[マルチプリント]	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
[全コマインデックス]	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
[予約プリント]	プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像がないときは、選択できません。（☞P.114）

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。

[サイズ] プリンタで用意されている用紙に合わせます。

[フチ] 用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。

[分割数] 同じ画像を1枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで**[マルチプリント]**を選択したとき、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像をあとでまとめてプリント（1枚予約）したり、表示している画像をプリントすることができます。

[プリント]（OK） 表示している画像をプリントします。**[1枚予約]**をした画像が1枚でもあると、予約されている画像のみプリントされます。

[1枚予約]（▲） 表示している画像をプリントする予約をします。**[1枚予約]**をしたら、◁▷で、次に予約したい画像を選んでください。

[詳細予約]（▼） 表示している画像のプリントする枚数や情報を、プリントするかどうかを設定します。操作については次項「プリントする情報を設定する」（☞P.119）をご覧ください。

プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。

[プリント枚数] プリントする枚数を設定します。

[日付] 画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。

[ファイル名] 画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。

9 プリントする

2 プリントする画像や内容が決まったら、[プリント]を選択し、Ⓞボタンを押します。

[プリント] プリンタへプリントする画像のデータを転送します。

[中止] プリントをやめます。設定した予約などはすべて失われます。予約した内容を残して続けて予約や設定をしたいときは、◁を押します。一つ前の設定に戻ります。

• プリントを始めてから途中で停止したいときは、Ⓞボタンを押します。

[続行] プリントを続行します。

[中止] プリントを停止します。設定した予約はすべて失われます。

9

プリントする

10 OLYMPUS Masterを使う

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコンに取り込みます。

準備するもの

- OLYMPUS Master 2 CD-ROM
- USBケーブル
- 動作環境を満たしたパソコン
  （動作環境については、インストールガイドをご覧ください。）

OLYMPUS Masterをインストールする
（OLYMPUS Masterに同梱されているインストールガイドを参照）

▼

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する （☞P.122）

▼

OLYMPUS Masterを起動する （☞P.123）

▼

画像をパソコンに保存する （☞P.123）

▼

カメラをパソコンから取り外す （☞P.124）

付属のOLYMPUS Masterを使う

OLYMPUS Masterとは?

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむためのアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

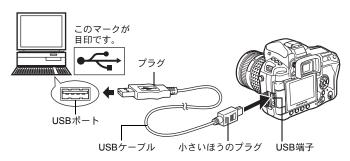
- **カメラやメディアから画像を取り込む**
- **画像を見る**
  スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。
- **画像を整理・管理する**
  アルバム、またはフォルダで画像を整理できます。取り込んだ画像は撮影日時で自動的に整理され、日付によって画像をすばやく見つけることができます。
- **フィルタ機能、補正機能で画像を補正する**
- **画像を編集する**
  画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。
- **プリンタを使ってプリントする**
  簡単な操作でプリントできます。
- **カメラのバージョンアップをする**
- **RAW画像を現像する**

その他の機能や操作方法については、OLYMPUS Masterの「ヘルプ」をご覧ください。

カメラをパソコンに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 付属のUSBケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのUSB端子を接続します。

- USB ポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラのパワースイッチをONにします。

- 液晶モニタに USB ケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 ⊜⊝を押して[ストレージ]を選択します。Ⓞボタンを押します。

4 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

Windowsの場合

- 初めてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを自動的に認識する動作を行い、終了のメッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。

Macintoshの場合

- Mac OSでは、iPhotoが画像処理ソフトとしてあらかじめ設定されています。このデジタルカメラを初めて接続したときは、iPhotoが自動的に起動します。iPhotoを閉じて、OLYMPUS Masterを起動させてください。

注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Masterを起動する

Windowsの場合

1 デスクトップの「OLYMPUS Master 2」アイコン をダブルクリックします。

Macintoshの場合

1 「OLYMPUS Master 2」フォルダ内の「OLYMPUS Master 2」アイコン をダブルクリックします。

- ブラウズウィンドウが表示されます。
- OLYMPUS Masterをインストールして初めて起動すると、ブラウズウィンドウの前にOLYMPUS Masterの初期設定画面とユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって操作してください。

OLYMPUS Masterを終了するには

1 各ウィンドウで「閉じる」 をクリックします。

- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

1 ブラウズウィンドウで「取り込み」 をクリックして、「カメラから取り込み」 をクリックします。

- カメラから取り込みウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

2 「新規アルバム」を選択して、アルバムの名前を入力します。

3 画像ファイルを選択し、「取り込み」ボタンをクリックします。

- 取り込み完了のメッセージが表示されます。

4 「今すぐ画像を見る」ボタンをクリックします。

- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。

10

OLYMPUS Masterを使う

カメラを取り外す

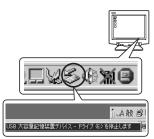
1 カメラのカードアクセスランプの点滅が終了していることを確認します。

2 USBケーブルを抜く準備をします。

Windowsの場合

1) システムトレイに表示されている「ハードウェアの取り外し」アイコン をクリックします。
2) 表示されるメッセージをクリックします。
3)「デバイスは安全に取り外すことができます」が表示されたら、「OK」をクリックします。

Macintoshの場合

1) デスクトップの「名称未設定」(または「NO_NAME」)アイコンをドラッグすると「ごみ箱」アイコンが「取り出し」アイコンに変わりますので、そのまま「取り出し」アイコンの上にドロップしてください。

3 カメラからUSBケーブルを抜きます。

注意

- Windows の場合：
  「ハードウェアの取り外し」をクリックした際、「カメラを停止できません」という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、「ハードウェアの取り外し」の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画を見る

1 ブラウズウィンドウの「アルバム」タブをクリックし、見たいアルバムを選択します。

- 選択したアルバムの画像がサムネイルエリアに表示されます。

2 見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。

- 画像編集ウィンドウに切り換わり、画像が拡大されます。
- 「戻る」 をクリックすると、ブラウズウィンドウに戻ります。

サムネイル

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows　：2000 Professional/XP Home Edition/XP Professional/Vista
Macintosh：Mac OS X v10.3以降

注意

- Windows Vistaをお使いの場合は、122ページの手順3で**[MTP]**を選択することでWindows フォト ギャラリーが使用できます。
- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

こんなときは?

撮影前、こんなときは

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない

- 充電器で電池を充電してください。

低温下にあり、一時的に電池の性能が低下した

- 電池は低温下にあると性能が低下して、カメラを動かすための十分な充電量が確保できない場合があります。カメラから電池を一度取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してみましょう。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた

- カメラは何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入り、カメラは動作停止します。シャッターボタンなどいずれかのボタンを操作するとカメラは動作を再開します。更に4時間何も操作をしないと、自動的に電源が切れます。カメラは電源を入れなおすまで動きません。☞「スリープ時間」(P.104)、「自動電源OFF」(P.105)

フラッシュが充電中である

- フラッシュを起こしているとき、ファインダ内の ⚡ マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待ってからシャッターボタンを押してください。

ピント合わせができなかった

- ファインダ内の合焦マークが点滅しているときは、AFでピントを合わせることができなかったときです。もう一度シャッターボタンを押しなおしてください。

ノイズリダクションが作動している

- 夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。このカメラは長秒時の撮影後にノイズを取り除く動作をしますが、この間、次の撮影はできません。**[ノイズリダクション]**は**[OFF]**に設定することもできます。☞「ノイズリダクション―長秒時の画像ノイズを軽減する」(P.76)

日時設定がされていない

購入時のままで使用している

• お買い上げ時のカメラの状態では日時設定はされていません。日時設定をしてからご使用ください。☞「日時を設定する」（P.15）

カメラから電池を抜いていた

• 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には日時の設定が正しいことを確認してください。

こんな撮影がしたい

狙ったものにピントを合わせたい

被写体の種類によっていくつかの方法があります。

被写体にAFターゲットがあっていない

• 被写体にAFターゲットがあたるようにしてフォーカスロックを使います。
☞「フォーカスロック—ピントが合わないとき」（P.61）

それぞれのAFターゲットに被写体以外のものがあたっている

• **[AF ターゲット選択]** を **[・]** に設定し、AF ターゲット位置でピント合わせをします。
☞「AFターゲットの選択」（P.58）

被写体の動きが早い

• 撮影しようとする位置とほぼ同じ距離のものでピントを合わせ（シャッターボタン半押し）、そのまま撮影する構図に移して被写体を待ちます。

マクロレンズによる接写をしている

• マクロレンズを使って接写する場合、被写体の拡大率が大きいほどAFではピントが合いにくくなります。マニュアルフォーカス（MF）を使って、フォーカスリングを回して手動でピントを合わせます。☞「MF（マニュアルフォーカス）」（P.56）

暗いところで撮影をしている

• 内蔵フラッシュはAFイルミネータとして機能させることができます。フラッシュを起こしておくと、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピント合わせができます。☞「内蔵フラッシュ撮影」（P.80）、「AFイルミネータ」（P.98）

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅
このようなものには
ピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体　画面中央に極端に明るいものがある場合　繰り返しパターン

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合　動きの速いもの　被写体がAFターゲット内にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。

ぶれない写真を撮りたい

写真がぶれる理由は、いくつかあります。

被写体が暗い

- 被写体の明るさに合わせてシャッター速度は変化します。被写体が暗くシャッター速度が遅いとき、被写体が動くとぶれやすくなります。
  ISO感度の数値を高く設定しましょう。また、シャッター速度が遅いときは一般的に手ぶれが目立ちやすくなります。三脚などを使ってカメラを固定しましょう。さらにリモコン（別売）を使ってシャッターを切ると効果的です。

シャッターを切るときにカメラがぶれている、カメラを構える手がぶれている。

- シャッターボタンは静かに押してください。また、カメラは両手で持って正しく構えましょう。
- 手ぶれ補正機能を使って撮影します。☞「手ぶれ補正」（P.66）

フラッシュをあまり光らせないで撮りたい

フラッシュをオートに設定しているとき、明るさが不足して手ぶれを発生する場合は、自動的に光ります。被写体の距離が遠いとフラッシュが光ってもあまり効果がない場合があります。このようなときは以下の方法があります。

手ぶれ補正機能を設定する

- 手ぶれが補正されるので、明るさが不足している状況でも、手持ちでフラッシュを発光させないで撮影できます。☞「手ぶれ補正」（P.66）

ISO感度の設定を高くする

- ISO感度の設定の数値を高くします。画像が粗くなる場合があります。☞「ISO感度の設定」（P.53）

撮影した写真が粗い

撮影した写真が粗く見える理由はいくつかあります。

ISO感度を高く設定して撮影した

- ISO 感度の設定を高くすると、「ノイズ」と言われる本来そこにはないはずの色の小さな点や均一の色の部分に色むらが発生し、画像が粗く見えます。このカメラはノイズを抑えて高感度で撮影できる機能を備えていますが、ISO感度を高くすると、低いときよりは粗くなります。☞「ISO感度の設定」（P.53）

撮影した画像が全体的に白っぽい

逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストと言われる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光を遮ってみましょう。
☞「交換レンズについて」（P.145）

正しい色で撮りたい

撮影した写真の色が見た目と違う原因は被写体を照らす光源です。**[ホワイトバランス]**はカメラが正しい色を判断するための機能です。通常は**[オート]**でほとんどの環境をカバーしますが、被写体の条件によっては**[ホワイトバランス]**の設定を変えて試してみる方が良い場合があります。

- 晴天の日中でも被写体が陰になるとき
- 窓辺などで外光と照明光が重なってあたるとき
- 画面の中に白いものがないとき
  ☞「ホワイトバランスの選択」（P.69）

白い砂浜や雪景色をきれいな白で撮りたい

通常、雪などの白い被写体を撮影すると実際より暗く写ってしまいます。見たままの白を表現する方法はいくつかあります。

- 露出補正を**[+]**に補正します。☞「露出補正」（P.50）
- **[⊡HI]**（スポット測光ハイライトコントロール）を使います。
  ファインダ中央を、白く表現したい部分にあててシャッターボタンを半押しします。中央で測光した部分が白く写るように設定されます。☞「測光方式の変更」（P.49）
- AEブラケット機能を使って撮影します。
  露出補正の量がわからないときは、AEブラケットを使ってみましょう。シャッターボタンを押すたびに補正値を少しずつ変えて撮影されます。露出補正を少し大目に設定しておけば、その値を中心に上下に補正値を変えて撮影できます。
  ☞「AEブラケット撮影」（P.51）

逆光でも人物の顔が暗くならないように撮りたい

被写体に比べて背景などが極端に明るい場合は、明るい部分に露出が影響されて被写体が暗く写ってしまいます。これは、カメラが画面全体の明るさから判断して露出を決めてしまうためです。

- **[測光]**を**[•]**（スポット測光）に設定して画面中央で被写体の露出を測ります。構図を変えるときは被写体を画面中央におき、**AEL/AFL**ボタンを押しながら構図を変えてシャッターボタンを押します。☞「測光方式の変更」（P.49）
- フラッシュを起こしてフラッシュモードを**[⚡]**（強制発光）に設定して撮影します。逆光でも顔が暗くならずに撮影できます。**[⚡]**（強制発光）は逆光の他、蛍光灯など人工照明下での撮影のときにも使用します。☞「フラッシュモードの設定」（P.77）

明るすぎたり暗すぎたりして写る

Sモードや**A**モードで撮影するとき、シャッター速度や絞りの表示が点滅することがあります。点滅時は、正しい露出になっていないことを示しています。このままの状態で撮影すると、明るすぎる、または暗すぎる写真になってしまいます。その場合は、絞り値やシャッター速度の設定値を変更してください。
☞「絞り優先撮影」（P.44）、「シャッター優先撮影」（P.45）、「露出警告表示」（P.149）

被写体に無い明るい点が写り込む

撮像素子のドット抜けの可能性があります。**[ピクセルマッピング]**を行ってください。また、消えないときは何度かピクセルマッピングを行ってみてください。
☞「画像処理機能をチェックする—ピクセルマッピング」（P.139）

撮影中、これが知りたい

撮影できる枚数を多くしたい

撮影した画像は、カードに記録されます。より多くの画像を記録するには以下の方法があります。

- 画質モードを変えます。
  画質モードによって1枚の画像の容量は異なります。カードの空き容量を確保できない場合は画質モードを変えて撮影してみましょう。画像サイズが小さく、圧縮率が高いほど画像の容量は小さくなります。画像の容量が小さくなるように画像サイズと圧縮率を組み合わせて、**[画質設定]**で登録します。
  また、**[ピクセルサイズ]**で画像サイズの**[M]**、**[S]**のピクセルサイズを小さくすると、画像の容量はさらに小さくなります。☞「画質モードの選択」（P.67）、「画質設定」（P.109）、「ピクセルサイズ」（P.109）
- 容量の大きいカードをお使いください。
  記録できる画像枚数は、使用するカードの容量によって異なります。容量の大きいカードをお使いください。

新しいカードを使いたい

オリンパス製以外のカードを使うときや、パソコンなどで他の用途に使用したカードをカメラに入れると、**[このカードは使用できません]**と表示されることがあります。その場合は、**[カード初期化]**の機能を使ってカードを初期化してください。☞「カードを初期化する」（P.142）

電池を長持ちさせたい

以下の操作をすると実際に撮影をしなくても、電池の消耗は進みます。
- シャッターボタンの半押しを繰り返す
- 撮影した画像の再生を長時間繰り返す
- 長時間ライブビュー機能を使う

電池の消耗をできるだけ防ぐには、こまめに電源を切るようにしましょう。

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。
- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- すでに設定済みの項目との組み合わせの関係で設定できない場合：
  [□H]と**[ノイズリダクション]**の組み合わせなど。

画質モードの選び方の目安を知りたい

画質モードは、大きくはRAWとJPEGの2種類に分けられます。RAWは画像自体にホワイトバランスやコントラストなどの設定を反映せずに記録します。JPEGはこれらの設定を反映した画像で記録します。また、JPEGは画像を記録する際にファイルサイズを小さくするために圧縮して記録します。JPEGは3種類の画像サイズ（L/M/S）と4種類の圧縮率（SF/F/N/B）を組み合わせた12通りの設定から、4通りを登録することができます。圧縮率が大きいほど画像を拡大して表示した場合に粗さが目立ちます。選択する際のおおよその目安は以下の通りです。

撮影時の設定を元に、パソコンで微調整したい
- **[RAW]**

A3/A4などの大きなサイズで印刷したい／パソコンで画像処理したい
- 画像サイズL、圧縮率SF/F/N/B

はがきなどのサイズに印刷したい
- 画像サイズM、圧縮率SF/F/N/B

メールに添付したりホームページに載せる
- 画像サイズS、圧縮率SF/F/N/B

☞「画質モードとファイル容量、撮影可能枚数」（P.153）

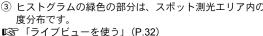
設定した機能を購入時の設定に戻したい

- 設定した機能は電源を切っても保持しています。
- 工場出荷時の設定に戻したいときは、**[カスタムリセット設定]**で**[リセット]**を実行します。また、リセットしたときの設定を2種類まで登録することができます。カメラの各機能を設定して**[カスタムリセット設定]**で**[リセット1]**または**[リセット2]**に登録します。☞「カメラを出荷時の設定に戻す」(P.34)

屋外で液晶モニタが見にくい状況で露出の確認をしたい

明るい屋外での撮影では、液晶モニタが見にくく露出の確認がしづらいことがあります。
ライブビュー撮影中に**INFO**ボタンを繰り返し押してヒストグラムを表示させます。
ヒストグラム表示の簡単な見かたは次の通りです。

ヒストグラム表示について

① このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は黒くつぶれ気味に写ります。
② このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は白くとび気味に写ります。
③ ヒストグラムの緑色の部分は、スポット測光エリア内の輝度分布です。
☞「ライブビューを使う」(P.32)

設定した機能を後で使えるように残しておきたい

[マイモード設定]で現在のカメラの設定状態を2つまで登録しておくことができます。マイモードで撮影するときは、撮影モードをMy1/My2に切り換えます。また、Fnボタンにマイモードを登録しておくと、瞬時にマイモードで撮影できるようになります。
☞「マイモード撮影」(P.47)、「Fnボタン機能」(P.102)、「マイモード設定」(P.103)

再生中、こうしたい

撮影した画像の設定値などの情報を知りたい

画像を再生して**INFO**ボタンを押します。繰り返し押すと、表示される情報量が変わります。☞「情報表示」(P.90)

パソコンの画面で画像全体を見たい

パソコンのモニタ上で画像が表示されるときの大きさは、パソコンの設定によって変わります。モニタの設定が1024 × 768のときInternet Explorerを使って画像を見る場合、画像サイズが2048 × 1536の画像を100%で表示するとスクロールしないと全体を見ることができません。この場合、いくつかの方法があります。

画像閲覧用のソフトを使って画像を見る

- 付属のCD-ROMのOLYMPUS Masterをインストールして使用してください。

パソコン画面のプロパティの設定を変更する

- デスクトップのアイコンの配置が変わってしまうことがあります。パソコンの設定方法は、パソコンの取扱説明書をお読みください。

RAWで記録した画像を見たい

付属のCD-ROMのOLYMPUS Masterをインストールして使用してください。OLYMPUS MasterのRAW現像の機能を使うと、RAW画像を撮影時のカメラの設定で現像したり、ホワイトバランスやコントラストなどの設定を細かく変更することもできます。

エラーコード

ファインダ内の表示	コントロールパネルの表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
通常表示	- - -	カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
Card E	-E-	このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
Card P	-P-	書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。 再度パソコンを使って設定を解除してください。
Card 0	0	撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	表示なし	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。

ファインダ内の表示	コントロールパネルの表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	表示なし	カードセットアップ [xD] カードの金属面を乾拭きしてください。 カードを拭く カード初期化 選択 決定 OK	xD-ピクチャーカードが読み込めていません。またはカードが初期化されていません。	• **[カードを拭く]**を選択し、Ⓞボタンを押してカメラの電源を切ります。カードを抜いて乾いた柔らかい布で金属面を乾拭きしてください。 • **[カード初期化]▶[実行]**の順に選択し、Ⓞボタンを押して初期化します。初期化すると、カード内のデータはすべて消去されます。
表示なし	表示なし	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。 撮影してから再生してください。
表示なし	表示なし	この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。 それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
表示なし	表示なし	この画像は編集できません	他のカメラで撮影した画像などを選択している場合は編集できません。	パソコンの画像ソフトなどで編集してください。
表示なし	表示なし	しばらく使用できません カメラの内部温度が下がるまでお待ちください	長時間のライブビューや連写などによりカメラの内部温度が上昇しています。	しばらくすると、自動的に電源が切れます。カメラの内部温度が下がって撮影可能になるまでしばらくお待ちください。
CArd oP	-0-	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。

ファインダ内の表示	コントロールパネルの表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
表示なし	表示なし	電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。
表示なし	表示なし	接続されていません	カメラがパソコンまたはプリンタに正しく接続されていません。	カメラとパソコンまたはプリンタを正しく接続しなおしてください。
表示なし	表示なし	用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
表示なし	表示なし	インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
表示なし	表示なし	紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
表示なし	表示なし	プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
表示なし	表示なし	プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
表示なし	表示なし	この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⒺマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。その後、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ・ミラー・フォーカシングスクリーン：

- 市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り換えて、カメラの機能をテストしてください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやホコリを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、パワースイッチをONにするときのほか、ライブビュー起動時・終了時にも働きます。また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。ダストリダクションが動作中はSSWFランプが点滅します。

☞「SSWFランプ」（P.14）

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

ゴミの除去―クリーニングモード

撮像素子にゴミやホコリが付着すると、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。オリンパスのサービスステーションへクリーニングをお申し付けください。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいものです。やむなくご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順と注意をお守りください。クリーニング中に電池残量がなくなると、シャッターが閉まり、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。電池残量にご注意ください。

1 レンズを取り外し、パワースイッチをONにします。

2 MENU ▶ [Ɏ1] ▶ [Ɏ] ▶ [クリーニングモード]

3 ⓘを押して、Ⓞボタンを押します。

• クリーニングモードになります。

4 シャッターボタンを全押しします。

• ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

5 撮像素子をクリーニングします。

• ブロアー（市販品）で注意しながら、撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。

6 電源を切ってクリーニングを終えるときは、ブロアーがシャッター幕にはさまらないようにしてください。

• カメラの電源を切ると、シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。

❗ 注意

• ブロアー（市販）が撮像素子に触れないようにしてください。ブロアーが撮像素子に触れると傷がつきます。
• ブロアーをレンズマウントより中に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕が破損します。
• ブロアー以外のものは使用しないでください。高圧でガスなどを吹き付けると、撮像素子の表面でガスが凍結して傷がつきます。

画像処理機能をチェックする―ピクセルマッピング

現像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 MENU ▶ [Ɏ2] ▶ [ピクセルマッピング]

2 ⓘを押して、Ⓞボタンを押します。

• ピクセルマッピング実行中の[処理中]バーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。

❗ 注意

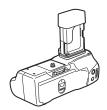
• 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

主な別売アクセサリー

このカメラでは以下のような当社製アクセサリーが使用できます。

電源

パワーバッテリーホルダー（HLD-4）
パワーバッテリーホルダーをカメラに装着し、縦位置撮影用のグリップとして使用します。また、長時間カメラを使用することができます。

パワーバッテリーホルダーをカメラに取り付けるときは､カメラの電池カバーを左図の手順で取り外します。

リチウムイオン充電器（BCM-1）
同梱のリチウムイオン電池（BLM-1）を約2時間で充電する専用充電器です。

ワイヤレスフラッシュ

オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステム（FL-50R/FL-36R）
大光量の外部フラッシュです。FP発光や多灯ワイヤレスフラッシュ撮影ができます。

リモートケーブル

リモートケーブル（RM-CB1）
マクロ撮影やバルブ撮影時に有効なリモートスイッチです。カメラのリモートケーブル端子に接続して使用します。

アイカップ

視度補正アイカップ（DE-P3/DE-N3）
近視や遠視の方でも眼鏡無しで撮影ができます。

別売のアイカップに付け換えるときは、左図のように取り外します。

カードについて

使用できるカード

本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、コンパクトフラッシュ、マイクロドライブ、xD-ピクチャーカード（別売）です。

コンパクトフラッシュ
大容量かつ堅牢性の高いフラッシュメモリーカードです。市販のコンパクトフラッシュが使用できます。

マイクロドライブ
大容量に対応した小型のハードディスクドライブです。CF + TypeII（コンパクトフラッシュの拡張規格）準拠のマイクロドライブが使用できます。

xD-ピクチャーカード
主にコンパクトカメラで使用されている記録メディアです。

マイクロドライブ使用時のご注意

マイクロドライブは小型のハードディスクドライブです。回転系記録媒体のため、他のカードのような固体記録媒体に比べ、振動や衝撃に弱く、使用時（とくに記録中や再生中）は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分な注意が必要です。ご使用の前に以下の注意事項をよくお読みください。
マイクロドライブの取扱説明書も合わせてお読みください。

- 画像記録中にカメラを机などに置く場合は、カメラに衝撃を与えないでください。
- 工事などで地盤が振動している場所や、舗装の悪い道を走行中の車など、カメラに激しく振動が伝わる場所では使用しないでください。
- 強い磁気のある場所へ近づけないでください。

注意

- 初期化や削除してもカード内のデータは完全に消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードを初期化する

当社製以外のカードやパソコンで初期化したカードを使用する場合は、必ずこのカメラで初期化しなおしてください。
初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

1 MENU ▸ [カメラ] ▸ [カードセットアップ]

2 △▽で[カード初期化]を選択します。OKボタンを押します。

3 △▽で[実行]を選択します。OKボタンを押します。

- 初期化が実行されます。

こんなときは

2つのカードスロットにカードを挿入しているときは：

→**[記録カード選択]** で使用するカードを選択してください。☞「記録カード選択」（P.111）

資料

12

電池／充電器について

- 電池は、当社製リチウムイオン電池（BLM-1）1 個を使用します。
それ以外の電池は使用できません。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ライブビュー撮影中。
  - 長時間、液晶モニタで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器（BCM-2）で充電を行ってください。
- 付属の充電池の充電時間は通常約5時間（目安）です。
- 専用の充電器以外は使用しないでください。

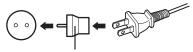
ACアダプタ

長時間スライドショーを行う、パソコンに画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタ（AC-1：別売）のご使用をおすすめします。
専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。

注意

- カメラの電源が入っているとき、カメラを他の機器に接続しているとき、電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- ACアダプタの取扱説明書を必ずお読みください。

海外での使用について

- 充電器とACアダプタは、世界中のほとんどの家庭用電源AC100～240 V（50/60 Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、電源コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプター（市販）が必要になる場合があります。

変換プラグアダプター（市販）

イラストの変換プラグアダプター（市販）は一例です。
詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。

- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器やACアダプタが故障することがありますので使用しないでください。

交換レンズについて

撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。
レンズは専用レンズ（フォーサーズマウント）をご使用ください。専用レンズ以外では、オートフォーカスや正確な測光はできません。また、働かない機能があります。

フォーサーズマウント
オリンパスが開発した規格。フォーサーズシステムのレンズマウント規格。既存の35 mmフィルム一眼レフカメラ用レンズシステムにとらわれず、デジタルカメラの特性にふさわしい光学設計に基づいて、新たに開発されたデジタルカメラ専用の交換レンズです。

ZUIKO DIGITAL用交換レンズ

過酷なプロユースにも耐えうるよう設計された「フォーサーズシステム」専用の交換レンズです。「フォーサーズシステム」の利点を活かすことで、大口径でありながら小型軽量化を実現しています。

フォーサーズシステムレンズの焦点距離と被写界深度について

35 mm判カメラに対してフォーサーズシステムカメラは、同じ焦点距離、同じ絞り値に対して得られる効果が異なります。

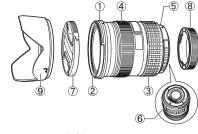
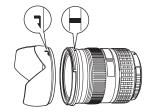
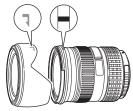
焦点距離
35 mm判カメラと同じ焦点距離に対して、2倍相当の望遠効果が得られます。そのため、小型の望遠レンズ設計が可能です。たとえば、フォーサーズシステムレンズ14-50 mmは、35 mm判換算で28-100 mmに相当します。
- フォーサーズシステムレンズの画角を35 mm判換算した場合、得られる遠近感は35 mm判カメラと同じです。

被写界深度
35 mm判カメラに対して2倍相当の深い深度が得られます。そのため、開放絞りでより多くの光を集めることができます。たとえば、F2.0の明るさのフォーサーズシステムレンズは、35 mm判換算でF4.0に相当します。
- 背景のボケ量は、35 mm判換算した値で得られる効果と同じです。

注意
- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- 埃の多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、埃の侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

主なZUIKO DIGITALレンズの仕様

■ 各部の名称

① フード取り付け部
② フィルター取り付けネジ
③ ズームリング
④ フォーカスリング
⑤ 取り付け指標
⑥ 電池回路接点
⑦ フロントキャップ
⑧ リアキャップ
⑨ レンズフード

■ フードの取り付け方

■ フードの収納のしかた

• 逆光時はフードを取り付けて撮影してください。

■ 主な仕様

項目	12-60 mm	50-200 mm
マウント	フォーサーズマウント	
焦点距離	12～60 mm	50～200 mm
最大口径比	F2.8～4.0	F2.8～3.5
画角	84°～20°	24°～6.2°
レンズ構成	10群14枚	15群16枚
	多層膜コーティング（一部単層）	
絞り制御	F2.8～22	F2.8～22
撮影距離	0.25 m～∞	1.2 m～∞
ピント調整方式	AF/MF切り換え	
質量（フード、キャップを除く）	575 g	995 g
大きさ（最大径 × 全長）	ø79.5 × 98.5 mm	ø86.5 × 157 mm
レンズフード取り付け	バヨネット式	
フィルター取り付けネジ径	72 mm	67 mm

別売のエクステンションチューブEX-25は下記の範囲で使用できます。
EX-25取り付け時のピントの調整方式はMFになります。

<table>
<tr><th colspan="2">レンズ・焦点距離</th><th>撮影可能範囲</th><th>倍率
（）は35 mmフィルムカメラ換算</th></tr>
<tr><td rowspan="2">12-60 mm</td><td>12 mm</td><td colspan="2">ピントが合わないため使用できません。</td></tr>
<tr><td>60 mm</td><td>21.0 cm～25.5 cm</td><td>0.43～0.58×（0.86～1.16×）</td></tr>
<tr><td colspan="2">50-200 mm</td><td>ズーム全域撮影可能</td><td>0.12～0.49×（0.24～0.98×）</td></tr>
</table>

■ 保管上のご注意

- 使用後は清掃して保管してください。レンズ面のごみや汚れは、ブロアーブラシや刷毛で取り除きます。レンズの汚れは市販のレンズクリーニングペーパーを使ってください。有機溶剤は使わないでください。
- 必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- 防虫剤のあるところに保管しないでください。

❗ 撮影時のご注意

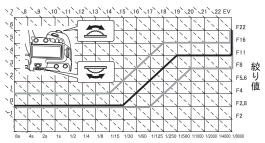
- フィルターを2枚以上重ねたり、厚みがある種類を使用したときは、画面にけられが生ずることがあります。

プログラム線図（Pモード）

Pモードのときは、被写体の明るさに応じて、下のグラフ（プログラム線図）のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図は装着するレンズによって変わります。

ズームレンズ

（14-54 mm F2.8-3.5）の場合
（焦点距離：14 mm、ISO100時）

プログラムシフト

シャッター速度連動範囲

撮影モード	シャッター速度連動範囲	フラッシュ発光秒時	同調秒時上限*1	発光固定秒時*2
P	60～1/8000秒	1/（レンズの焦点距離× 2）または同調秒時設定のいずれか遅い方	1/250	1/60
A	60～1/8000秒	1/（レンズの焦点距離× 2）または同調秒時設定のいずれか遅い方	1/250	1/60
S	60～1/8000秒	同調秒時設定	1/250	—
M	60～1/8000秒	同調秒時設定	1/250	—

*1 メニューで変更可：1/60-1/250　☞「⚡同調速度」（P.107）
*2 メニューで変更可：1/30-1/250　☞「⚡低速制限」（P.107）

露出警告表示

シャッターボタンを半押ししたとき、適正な露出が得られない場合はファインダとコントロールパネルの表示が点滅します。

撮影モード	警告表示例（点滅）	状態	対処方法
P	60" F2.8	被写体が暗すぎます。	• ISO感度を上げてください。 • フラッシュを使用してください。
	8000 F22	被写体が明るすぎます。	• ISO感度を下げてください。 • 市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。
A	30" F5.6	露出アンダーです。	• 絞り値を小さくしてください。 • ISO感度を上げてください。
	4000 F5.6	露出オーバーです。	• 絞り値を大きくしてください。 • ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。
S	4000 F2.8	露出アンダーです。	• シャッター速度を遅くします。 • ISO感度を上げてください。
	4000 F22	露出オーバーです。	• シャッター速度を速くします。 • ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください。

* 使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。

フラッシュ調光範囲

ISO感度／絞り値の設定による、内蔵フラッシュ撮影時のフラッシュ調光範囲は以下のとおりです。

	ISO感度						フラッシュ調光範囲（m）
	3200	1600	800	400	200	100	
絞り値	F8	F5.6	F4	F2.8	F2	F1.4	9.3
	F11	F8	F5.6	F4	F2.8	F2	6.5
	F16	F11	F8	F5.6	F4	F2.8	4.6
	F22	F16	F11	F8	F5.6	F4	3.3
	F32	F22	F16	F11	F8	F5.6	2.3
		F32	F22	F16	F11	F8	1.6
			F32	F22	F16	F11	1.2
				F32	F22	F16	0.8
					F32	F22	0.6

交換レンズによる内蔵フラッシュのけられ

内蔵フラッシュ撮影の可能なレンズは、14 mmから150 mmまでのレンズです。ただし、以下のレンズはフラッシュの光がレンズによってさえぎられるため、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

レンズ	焦点距離	撮影可能距離
ED14-42 mm　F3.5-5.6	14 mm	1.2 m～
ED14-45 mm　F3.5-5.6	14 mm	1.2 m～
ED14-54 mm　F2.8-3.5	14 mm	1.2 m～
ED12-60 mm　F2.8-4.0 SWD	14 mm	2.0 m～

- 上記の撮影可能距離はレンズフード非装着時です。
- 0.5 mまでの近接撮影で内蔵フラッシュを使用すると正しく調光できません。

撮影モード別使用可能なフラッシュモード

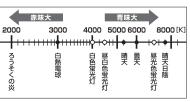
撮影モード	ファインダの表示	コントロールパネルの表示	スーパーコンパネの表示	フラッシュモード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
P A ⚡(icon) (icon)	⚡ -A	⚡-A	⚡ AUTO	オート発光	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*のとき発光	1/30秒～1/250秒
	⚡ oo -A	⚡-A 👁	👁	オート発光（赤目軽減）			
	⚡	⚡	⚡	強制発光		いつでも発光	
	⚡ oFF	⚡ oFF	(発光禁止マーク)	発光禁止	—	—	—
	⚡ SLo oo -A	⚡SLOW -A 👁	👁 SLOW	スローシンクロ（赤目軽減）	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*のとき発光	60秒～1/250秒
	⚡ SLo -A	⚡SLOW -A	⚡ SLOW	スローシンクロ			
	⚡ SLo 2 -A	⚡SLOW -A 2nd-CURTAIN	⚡ SLOW2	スローシンクロ	後幕シンクロ		
	⚡ FuLL	⚡ FuLL	⚡ FULL	マニュアル発光（FULL）	先幕シンクロ	いつでも発光	
	⚡ 1-4	⚡ 1-4	⚡ 1/4	マニュアル発光（1/4）			
	⚡ 1-16	⚡ 1-16	⚡ 1/16	マニュアル発光（1/16）			
	⚡ 1-64	⚡ 1-64	⚡ 1/64	マニュアル発光（1/64）			

* 専用フラッシュがスーパーFPモードに設定されているとき、通常のフラッシュ発光秒時以上で逆光を判定して発光します。☞「スーパー FP発光」（P.83）

撮影モード	ファインダの表示	コントロールパネルの表示	スーパーコンパネの表示	フラッシュモード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
S M B	⚡	⚡	⚡	強制発光	先幕シンクロ	いつでも発光	60秒～1/250秒
	⚡ oo	⚡ 👁	👁⚡	強制発光（赤目軽減）			
	⚡ oFF	⚡ oFF	⊘⚡	発光禁止	—	—	—
	⚡ 2	⚡ 2nd-CURTAIN	2nd CURTAIN	強制発光／スローシンクロ	後幕シンクロ	いつでも発光	60秒～1/250秒
	⚡ FuLL	⚡ FuLL	⚡ FULL	マニュアル発光（FULL）	先幕シンクロ		
	⚡ 1-4	⚡ 1-4	⚡ 1/4	マニュアル発光（1/4）			
	⚡ 1-16	⚡ 1-16	⚡ 1/16	マニュアル発光（1/16）			
	⚡ 1-64	⚡ 1-64	⚡ 1/64	マニュアル発光（1/64）			

ホワイトバランス色温度

• 各光源として設定された色温度は目安です。

物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。
これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。
このカメラのプリセット値4000Kと4500K、6600Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。

画質モードとファイル容量、撮影可能枚数

表内のファイルサイズはおおよその目安です。

画質モード	画像サイズ（ピクセルサイズ）	圧縮率	ファイル形式	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数（xD-ピクチャーカード：1GBの場合）
RAW	3648 × 2736	ロスレス圧縮	ORF	約11	91
L SF		1/2.7	JPEG	約6.8	147
L F		1/4		約4.7	211
L N		1/8		約2.2	460
L B		1/12		約1.5	687
M SF	3200 × 2400	1/2.7		約5.3	187
M F		1/4		約3.7	267
M N		1/8		約1.7	597
M B		1/12		約1.1	888
M SF	2560 × 1920	1/2.7		約3.6	280
M F		1/4		約2.2	466
M N		1/8		約1.1	927
M B		1/12		約0.7	1361
M SF	1600 × 1200	1/2.7		約1.3	799
M F		1/4		約0.8	1163
M N		1/8		約0.5	2284
M B		1/12		約0.3	3198
S SF	1280 × 960	1/2.7		約0.8	1230
S F		1/4		約0.5	1776
S N		1/8		約0.3	3366
S B		1/12		約0.2	4920
S SF	1024 × 768	1/2.7		約0.5	1881
S F		1/4		約0.4	2665
S N		1/8		約0.2	4920
S B		1/12		約0.1	7107
S SF	640 × 480	1/2.7		約0.2	4569
S F		1/4		約0.2	6396
S N		1/8		約0.1	10661
S B		1/12		約0.1	12793

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもファインダや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。

マイモード・カスタムリセット設定で登録可能な機能

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
撮影モード	✓	—
露出補正	✓	✓
手ぶれ補正	—	✓
⏏/⏱/□*（ドライブ）	✓	✓
AF方式	✓	✓
AFターゲット選択	✓	✓
AE BKT	✓	✓
ISO BKT	✓	✓
WB BKT	✓	✓
FL BKT	✓	✓
仕上がり	✓	✓
階調	✓	✓
画質モード	✓	✓
ノイズリダクション	✓	✓
WBモード	✓	✓
WB補正	✓	✓
測光	✓	✓
ISO感度	✓	✓
ノイズフィルタ	✓	✓
フラッシュモード	✓	✓
⚡RCモード	✓	✓
フラッシュ補正	✓	✓
AFイルミネータ	✓	✓
フォーカスリング	—	✓
AFロックオン	—	—
AFターゲット表示	—	—
AFターゲットサイズ	—	—
[···]循環選択	—	—
レンズリセット	—	—
BULB中MF	—	—
ダイヤル	—	✓
AEL/AFLモード	—	✓
AEL/AFL MEMO	—	✓
[Fn]ボタン機能	—	✓
マイモード設定	—	—
ボタンON保持時間	—	—
AEL⇄Fn	—	✓
レリーズ優先S	✓	✓
レリーズ優先C	✓	✓

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
□L設定	—	✓
ビープ音	—	✓
スリープ時間	—	✓
バックライト時間	—	✓
自動電源OFF	—	—
USB接続モード	—	—
LVブースト	✓	✓
罫線表示	—	✓
露出ステップ	—	✓
ISO感度ステップ	—	✓
ISOオート設定	—	✓
ISOオート有効	—	✓
AEL測光モード	—	✓
BULBリミッター	—	✓
⚡同調速度	✓	✓
⚡低速制限	✓	✓
[⚡±] + [±]連動	—	✓
全WBモード補正	—	—
カラー設定	✓	✓
シェーディング補正	✓	✓
画質設定	—	✓
ピクセルサイズ	—	✓
ワンプッシュ消去	—	✓
RAW+JPEG消去	—	✓
ファイルネーム	—	—
実行優先設定	—	—
dpi設定	—	—
クリーニングモード	—	—
光源センサの参照	✓	✓
日時設定	—	—
記録カード選択	—	—
ファイルネーム編集	—	—
モニタ調整	—	—
	—	—
ビデオ出力	—	—
撮影確認	—	✓
ピクセルマッピング	—	—
バージョン	—	—

✓：登録可　—：登録不可

* 低振動モードを含む

資料

12

メニュー一覧

撮影メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	カードセットアップ	全コマ消去／カード初期化		P.97 P.142
	カスタムリセット設定	リセット		P.34
		リセット1	登録／クリア	
		リセット2	登録／クリア	
	仕上がり	VIVID／NATURAL*／FLAT／PORTRAIT／モノトーン／カスタム		P.74
	階調	オート／標準*／ハイキー／ローキー		P.75
	画質モード	RAW／LF／LN*／MN／SN／RAW+LF／RAW+LN／RAW+MN／RAW+SN		P.67
	WBモード	オート*	A -7～+7,G -7～+7	P.69
		5300K	A -7～+7,G -7～+7	
		7500K	A -7～+7,G -7～+7	
		6000K	A -7～+7,G -7～+7	
		3000K	A -7～+7,G -7～+7	
		4000K	A -7～+7,G -7～+7	
		4500K	A -7～+7,G -7～+7	
		6600K	A -7～+7,G -7～+7	
		5500K	A -7～+7,G -7～+7	
		1～4	A -7～+7,G -7～+7	
		CWB	2000K～14000K	
	ISO感度	オート*／100～3200		P.53
	ノイズリダクション	OFF／ON*		P.76
	ノイズフィルタ	OFF／弱／標準*／強		P.76

タブ	機能	選択肢		参照ページ
	測光	*	AF連動ON*／AF連動OFF	P.49
		HI		
		SH		
	RCモード	OFF*／ON		P.84
	フラッシュ補正	-3.0～0.0*～+3.0		P.81
	AF方式	S-AF*／C-AF／MF／S-AF+MF／C-AF+MF		P.55
	AFターゲット選択	[:::]*／[・]／[·:·]		P.58
	低振動モード[♦]	OFF*／1秒～30秒		P.65
	AE BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV／5F 0.3EV／5F 0.7EV／5F 1.0EV		P.51
	WB BKT	A-B	OFF*／3F 2STEP／3F 4STEP／3F 6STEP	P.73
		G-M		
	FL BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV		P.82
	ISO BKT	OFF*／3F 0.3EV／3F 0.7EV／3F 1.0EV		P.54

* 初期設定

再生メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
	自動再生	1／4／9／16／25		P.91
	回転再生	OFF／ON*		P.91
	編集	RAW編集		P.93
		JPEG編集	リサイズ／階調オート	
	プリント予約	1コマ予約／全コマ予約		P.113
	全コマコピー	実行／中止		P.94
	全プロテクト解除	実行／中止		P.95

* 初期設定

カスタムメニュー 1

タブ		機能	選択肢		参照ページ
1	A	AF/MF			P.98
		AFイルミネータ	OFF／ON*		P.98
		フォーカスリング	↻*／↺		P.98
		AFロックオン	OFF*／ON		P.98
		AFターゲット表示	OFF／ON*		P.98
		AFターゲットサイズ	標準*／小		P.99
		[•••]循環選択	OFF*／循環1／循環2		P.99
		レンズリセット	OFF／ON*		P.99
		BULB中MF	OFF／ON*		P.99
	B	ボタン／ダイヤル			P.100
		ダイヤル	**P**	**Ps***／露出補正／フラッシュ補正	P.100
			A	絞り*／露出補正／フラッシュ補正	
			S	シャッター速度*／露出補正／フラッシュ補正	
			M	メインダイヤル：シャッター速度／絞り*	
				サブダイヤル：シャッター速度*／絞り	
			MENU	メインダイヤル：◀▶／▲▼ / VALUE*	
				サブダイヤル：◀▶*／▲▼ / VALUE	
		AEL／AFLモード	S-AF*	mode1*／mode2／mode3	P.101
			C-AF	mode1／mode2*／mode3／mode4	
			MF	mode1*／mode2／mode3	
		AEL／AFL MEMO	OFF*／ON		P.101
		Fnボタン機能	プレビュー*／ライブプレビュー／ワンタッチWB／[•••]HOME／MF切換／RAW◀:::／P/A/S/M／試し撮り撮影／マイモード撮影／[•]/[•]／OFF		P.102
		マイモード設定	マイモード1／マイモード2		P.103
		ボタンON保持時間	OFF*／3秒／5秒／8秒／HOLD		P.103
		AEL/AFL⇄Fn	OFF*／ON		P.103
	C	レリーズ／連写			P.104
		レリーズ優先S	OFF*／ON		P.104
		レリーズ優先C	OFF／ON*		P.104
		▭L設定	1fps／2fps／3fps*／4fps		P.104

資料

12

タブ		機能	選択肢		参照ページ
1	D	表示／音／接続			P.104
		ビープ音	OFF／ON*		P.104
		スリープ時間	OFF／1分*／3分／5分／10分		P.104
		バックライト時間	8秒*／30秒／1分／HOLD		P.105
		自動電源OFF	OFF／4時間*		P.105
		USB接続モード	オート*／ストレージ／MTP／カメラコントロール／かんたん／カスタム		P.105
		LVブースト	OFF*／ON		P.106
		罫線表示	OFF*／方眼／黄金分割／目盛		P.106
	E	露出／測光／ISO			P.106
		露出ステップ	1/3EV*／1/2EV／1EV		P.106
		ISO感度ステップ	1/3EV*／1EV		P.106
		ISOオート設定	上限値	100～3200（800*）	P.106
			基準値	100～3200（100*）	
		ISOオート有効	P/A/S*／ALL		P.107
		AEL測光モード	オート*／／／HI／SH		P.107
		BULBリミッター	—		P.107
	F	フラッシュ			P.107
		同調速度	1/60～1/250*		P.107
		低速制限	1/30～1/250（1/60*）		P.107
		+ 連動	OFF*／ON		P.107
	G	画質／色／WB			P.108
		全WBモード補正	ALL SET	A -7～+7 G -7～+7	P.108
			ALL CLEAR	実行／中止	
		カラー設定	sRGB*／AdobeRGB		P.108
		シェーディング補正	OFF*／ON		P.108
		画質設定	1～4	L／M／S SF/F/N/B	P.109
		ピクセルサイズ	Middle	3200 × 2400／2560 × 1920*／1600 × 1200	P.109
			Small	1280 × 960*／1024 × 768／640 × 480	
	H	記録／消去			P.109
		ワンプッシュ消去	OFF*／ON		P.109
		RAW+JPEG消去	JPEG／RAW／RAW+JPEG*		P.109
		ファイルネーム	オート*／リセット		P.110
		実行優先設定	中止優先*／実行優先		P.110
		dpi設定	オート*／カスタム		P.110
	I	その他			P.111
		クリーニングモード	—		P.139
		光源センサの参照	OFF／ON*		P.111

* 初期設定

カスタムメニュー 2

<table>
<tr><th>タブ</th><th>機能</th><th colspan="2">選択肢</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="10">2</td><td>日時設定</td><td colspan="2">—</td><td>P.15</td></tr>
<tr><td>記録カード選択</td><td colspan="2">CF*／xD</td><td>P.111</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ファイルネーム編集</td><td>Adobe RGB</td><td rowspan="2">OFF*／A～Z／0～9</td><td rowspan="2">P.111</td></tr>
<tr><td>sRGB</td></tr>
<tr><td>モニタ調整</td><td colspan="2">オート*／-7～+7</td><td>P.111</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">日本語*／ENGLISH</td><td>P.111</td></tr>
<tr><td>ビデオ出力</td><td colspan="2">NTSC*／PAL</td><td>P.112</td></tr>
<tr><td>撮影確認</td><td colspan="2">OFF／AUTO▶／1秒～20秒（5秒*）</td><td>P.112</td></tr>
<tr><td>ピクセルマッピング</td><td colspan="2">—</td><td>P.139</td></tr>
<tr><td>バージョン</td><td colspan="2">—</td><td>P.112</td></tr>
</table>

* 初期設定

用語解説

50音順

圧縮率
画像などのデータの内容を一部省略してファイルサイズを小さくすることを、圧縮するといい、圧縮によって小さくなる割合を圧縮率といいます。実際の圧縮率は、画像によって変わるので、このカメラで画質として設定する圧縮率はあくまで目安とするためのものです。

一眼レフ方式（single lens reflex camera）
撮影用レンズから入ってくる光を、反射ミラーで屈折させてファインダで確認するカメラです。撮影される構図とファインダで見えている構図にずれが生じません。

色温度
光源の色を表すための指標。絶対温度の単位K（ケルビン）で表します。プランクの放射則にしたがった理想的な黒体を熱していくと、温度によって、暗赤色から、オレンジ、黄色、白、青白色と、発光する色が変わっていくので、その色を絶対温度で示すことができます。ただし、蛍光灯のように実際の温度と色温度が異なることもあります。プリセットホワイトバランスのときは、色温度を使って光源の色を設定します。

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ（ピクセルサイズ）
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。たとえば、640 × 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 × 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 × 768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

カラー空間
3つ以上の座標値で色を表すモデルのこと。色空間は、色のコード化と可視化に複数の手法を用いる場合があります。sRGB、Adobe RGBがそれにあたります。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

撮像素子
レンズを通して入ってきた光を受けて、電気信号に変換する素子。撮像素子で受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

スポット測光
ファインダの中央のごく一部を測光する測光方式。被写体の特定の部分に露出を合わせることができるため、明暗差の大きい被写体を撮影するときなどに適しています。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

中央重点平均測光
画面中央部の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響されることがあります。

デジタルESP測光（electro selective pattern）
画面内を49エリアに分割して個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

被写界深度
ある距離に焦点を合わせたとき、その距離にある被写体がはっきりと写るのと同時に被写体の前後でも、焦点が合っている範囲があります。このはっきりと写っている被写体の前後の奥行のことをいいます。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

アルファベット順

AE（automatic exposure）
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッター速度をカメラに任せる**P**モード、絞り値を決めてシャッター速度をカメラに任せる**A**モード、シャッター速度を決めて絞り値をカメラに任せる**S**モードの3種類のAEがあります。**M**モードでは、絞り値とシャッター速度の両方を決める必要があります。

Aモード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構の略称。デジタルカメラの感度はフィルム感度とともにISO規格で定められているため、感度を表す記号として「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質モードを**[RAW]**以外に設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

Mモード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC/PAL（National Television Systems Committee/Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

PictBridge
異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

Pモード（program mode）
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

RAWデータ
未加工のデータ。ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない、撮影したままのデータのことをいいます。当社独自のファイルなので、画像として表示するには専用のソフトが必要です。一般のソフトウェアで表示したり、DPOFでプリントすることはできません。拡張子は「.ORF」。

Sモード（shutter speed priority mode）
シャッター速度優先AEモード。シャッター速度を自分で決め、カメラがシャッター速度にしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TFT（thin-film transistor）
カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL（through-the-taking-lens）方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL位相差検出方式
位相差をもとに被写体までの距離を測り、焦点を合わせる方式。

仕様

カメラの仕様

■ 型式

型式　：レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ
使用レンズ　：ズイコーデジタル・フォーサーズシステムレンズ
レンズマウント　：フォーサーズマウント
35 mmフィルムカメラ換算焦点距離：
レンズ焦点距離の約2倍

■ 撮像素子

型式　：4/3型Live MOSセンサー
カメラ部有効画素数　：約1010万画素
画面サイズ　：17.3 mm（H）× 13.0 mm（V）
アスペクト比　：1.33（4:3）

■ ファインダ

形式　：TTL一眼レフファインダ
視野率　：上下左右とも約100%（対実画面）
ファインダー倍率　：約1.15倍（$-1\ m^{-1}$、50 mmレンズ・無限遠）
アイポイント　：カバーガラスより約20 mm（$-1\ m^{-1}$時）
視度調整範囲　：-3.0～$+1.0\ m^{-1}$
光路分割　：クイックリターン式全面ハーフミラー
被写界深度確認　：プレビューボタンによる
（**Fn** ボタンをプレビューに設定することで可能）
フォーカシング
スクリーン　：固定式
アイカップ　：交換式

■ ライブビュー

：撮影用Live MOSセンサー使用
：視野率100%

■ 液晶モニタ

型式　：2.5型TFTカラー液晶（ハイパークリスタル液晶）
可動式
総画素数　：約23万画素

■ シャッター

型式　：電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度　：1/8000～60秒、バルブ撮影

■ オートフォーカス

型式　：TTL位相差検出方式
測距点　：11点
AF輝度範囲　：EV-2～EV19
測距点選択　：自動選択・任意選択
AF補助光　：内蔵フラッシュによる

■ 露出制御

測光方式 ：TTL開放測光方式
（1）デジタルESP測光
（2）中央重点平均測光
（3）スポット測光（ファインダ画面の約2%）

測光範囲 ：EV1～20（デジタルESP測光／中央重点平均測光／スポット測光）（常温・50 mm F2使用・ISO100相当）

撮影モード ：（1）**P**：プログラムAE（プログラムシフト可能）
（2）**A**：絞り優先AE
（3）**S**：シャッター優先AE
（4）**M**：マニュアル
（5）**B**：バルブ

ISO感度 ：100～3200（1/3、1ステップ）

露出補正 ：±5EV（1/3、1/2、1ステップ）

■ ホワイトバランス

型式 ：撮像素子と光源センサーを併用

設定方式 ：オート／プリセット（8種）／カスタムWB／ワンタッチWB（4種）

■ 記録

記録媒体 ：CFカード（タイプI,II準拠）
マイクロドライブ（FAT16/32対応）
xD-ピクチャーカード

記録方式 ：デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、RAWデータ

対応規格 ：Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching III、PictBridge

■ 再生

表示形式 ：1コマ表示／拡大表示／インデックス表示／回転表示／スライドショー表示／ライトボックス表示／カレンダー表示

情報表示 ：情報表示／ヒストグラム表示

■ ドライブ関係

ドライブモード ：1コマ撮影／連写／セルフタイマー／リモコン

連写性能 ：約5コマ／秒

セルフタイマー ：12秒後撮影／2秒後撮影

光リモコン ：2秒後撮影／即時撮影（専用リモコンRM-1（別売））

■ フラッシュ

シンクロ同調 ：1/250秒以下で同調

調光方式 ：TTL-AUTO（TTLプリ発光式）／AUTO／MANUAL

外部フラッシュ接点 ：ホットシュー／外部フラッシュ端子（x接点）

ワイヤレスフラッシュ機能 ：オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムに対応

■ 外部コネクタ

USB端子／DC入力端子／ビデオ出力端子／リモートケーブル端子

■ 電源

電池 ：リチウムイオン電池（BLM-1）1個

AC電源 ：ACアダプタ（AC-1）（別売）

■ **大きさ・質量**

大きさ	：142.5 mm（横）× 116.5 mm（高さ）× 74.5 mm（奥行き）（突起部を除く）
質量	：約810 g（電池含まず）

■ **動作環境**

温度	：0～40 °C（動作時）／-20～60 °C（保存時）
湿度	：30～90%（動作時）／10～90%（保存時）

電池・充電器の仕様

リチウムイオン電池BLM-1

MODEL NO.	：PS-BLM1
形式	：充電式リチウムイオン電池
公称電圧	：DC7.2 V
公称容量	：1500 mAh
充放電回数	：約500回（使用する条件により異なります。）
使用周囲温度	：0 °C～40 °C（充電） -10 °C～60 °C（動作時） -20 °C～35 °C（保存時）
大きさ	：約39 mm（幅）× 55 mm（奥行き）× 21.5 mm（高さ）
質量	：約75 g（保護キャップ含まず）

リチウムイオン充電器BCM-2

MODEL NO.	：PS-BCM2
定格入力	：AC100 V～240 V（50/60 Hz）
定格出力	：DC8.35 V、400 mA
充電時間	：約5時間（常温：BLM-1ご使用の場合）
使用周囲温度	：0 °C～40 °C（動作時）／-20 °C～60 °C（保存時）
大きさ	：約62 mm（幅）× 83 mm（奥行き）× 26 mm（高さ）
質量	：約72 g（電源コード含まず）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない**
  引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュやLEDを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない**
  視力障害をきたすおそれがあります。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない**
  以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってケーブル類やストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池などの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡し、指示を受けてください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない**
  火災や感電の原因となることがあります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない**
  連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない**
  感電やけがをする原因となります。
- **内部に水や異物を入れない**
  火災や感電の原因になります。万一、水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない**
  充電中の充電器や電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。また別売のACアダプタを長時間ご使用の場合にも、本体の温度が高くなります。
- **専用の電池または充電器以外は使用しない**
  発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用を中止する**
  火災や、やけどの原因となります。このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- **濡れた手で操作しない**
  故障、感電の原因となることがあります。また充電器などの電源プラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
- **カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する**
  けがや事故の原因となることがあります。
- **高温になるところへ放置しない**
  部品の劣化、火災の原因となります。
- **専用のACアダプタ以外は使用しない**
  カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は補償しかねますので、あらかじめご了承ください。
- **充電器などのコードは傷つけたり、引っ張ったり、継ぎ足したりしない**
  コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持って行ってください。以下の場合はただちに使用を中止し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに傷、断線、またはプラグに接触不良がある。
- **交換レンズについてのご注意**
  - レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ない
    失明や視力障害を起こすことがあります。
  - 使用しないときはレンズキャップをつけて保管する
    太陽光が入射して、火災の原因になることがあります。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- **火の中に投下したり、加熱しない**
  発火・破裂・火災の原因となります。
- **(+)(−)端子を金属等で接続しない**
- **電池と金属製のネックレスやヘアピンを一緒に持ち運んだり、保管しない**
  ショート、発熱し、やけど・けがの原因となります。
- **直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で使用・放置しない**
  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。
- **直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない**
  端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない**
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電池の液が目に入った場合は、失明のおそれがあるので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流したあと、直ちに医師の診断を受けてください。**

⚠ 警告

- **電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさない**
- **濡れた手で電池を触ったり持ったりしない**
- **所定の充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止する**
  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- **外装にキズや破損のある電池は使用しない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない**
- **液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止する**
  販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。**

⚠ 注意

- **カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さない**
  やけどの原因となることがあります。
- **長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておく**
  液漏れ・発熱により、火災・けが・故障の原因となることがあります。

充電器についてのご注意

⚠ 危険

- **充電器を濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない**
  故障・感電の原因となります。
- **充電器を布などで覆った状態で使用しない**
  熱がこもってケースが変形したり、火災・発火・発熱の原因となります。
- **充電器を分解・改造しない**
  感電・けがの原因となります。
- **充電器は指定の電源電圧で使用する**
  指定以外の電源電圧を使用すると、火災・破壊・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。

⚠ 警告

- **コンセントからの抜き差しは、必ず充電器本体を持つ**
  充電器本体を持たないと、火災・感電の原因となることがあります。
  以下の場合はすぐに使用を中止し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに接触不良がある。

⚠ 注意

- **お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う**
  電源プラグを抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- カメラ本体や交換レンズの電気接点部には触れないでください。レンズを外したときは、ボディキャップを必ず取り付けてください。

電池について

- 当社製リチウムイオン充電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 持ち運び・保管の際は、＋ −電極端子がショートしないように必ず付属の保護キャップをしっかり付けてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。

- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、(+)端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは社団法人電池工業会のホームページ(http://www.baj.or.jp/recycle/)をご覧ください。

Li-ion

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

レンズについて

- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。
- 使用温度範囲は-10～40°Cです。範囲内でご使用ください。

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップル社の登録商標です。
xD-ピクチャーカード™は商標です。
階調自動調整機能は、Apical Limitedの特許技術を使用しています。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。ご記入いただいたお客様の個人情報は、本お問い合わせ対応のためだけに利用し、それ以外の目的には利用いたしません。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
  パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

● お名前（フリガナ）
● 連絡先：郵便番号
● 住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
電話番号／FAX
E-mail
● 製品名（型番）：E-3
● シリアル番号（製品底面に記載されています）：
● お買い上げ日：
● 問題が発生したときの症状（表示されたメッセージ、症状の再現性など）：

※ 以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

・ご使用のパソコンの種類：
・パソコンメーカー・型番等
・メモリの容量　ハードディスクの空き容量：
・OS名とバージョン：
・（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
・（Windows）コントロールパネル―システム―デバイスマネージャーの内容
・その他接続されている周辺機器名：
・問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：
・問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：

索引

英数・記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

OLYMPUS

オリンパスイメージング株式会社
〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**

フリーダイヤル
0120-084215

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※ カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）につきましては、本製品に同梱の「オリンパス代理店リスト」、またはオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。**

※ 記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

Printed in China
VS026702